

授業科目名： 情報化社会と知的財産権	教員の免許状取得のための の必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 須田 浩史
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 知的財産の種類について理解し、知的財産の種類を特定することができる。 2. 知的財産制度（特許法、実用新案法、商標法、意匠法、著作権法、不正競争防止法等）の制度概要について理解し、主要な要件を説明できる。 3. 情報化社会における知的財産の保護及び利用の重要性について説明できる。			
授業の概要			
今日、人工知能（A I）やロボット等はめまぐるしい技術進歩を遂げており、モノとモノとがインターネットを介して繋がる I o T も社会に広く浸透しつつある。第4次産業革命の到来を予見させる現代は、まさに高度情報化社会にほかならない。私たちは、そのような高度情報化社会の中で知的財産をどのように位置づけ、どのように関わりを持っていけばよいのか。本講により、情報化社会と知的財産権との関係性について、理解を深めてもらいたい。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回： 科学技術の課題と社会貢献 科学技術創造立国と知財立国 ・ 第1に、科学技術の課題、その社会貢献、倫理について説明する。 ・ 第2に、科学技術創造立国実現のための基本政策（科学技術基本法）、それを支える知財立国実現に向けた基本政策（知財基本法など）について説明する。			
第2回： 高度情報化社会と知的財産保護 ・ 高度情報化社会を支える主要な情報技術にはどのようなものがあるか、それらが人々の社会生活にどのような変化をもたらしているか、また、その変化の中でメリットを最大化し、デメリットを補填するために、知的財産の保護及び活用にはいかにあるべきか説明する。			
第3回： 特許・実用新案法（発明等の保護） ・ 情報化社会における特許制度の役割を概説するとともに、特許法の目的、保護対象、特許要件、及び出願から登録までの手続き等を説明する。コンピュータソフトウェア関連発明についても説明する。			
第4回： 商標法（営業標識等の保護） ・ 情報化社会における商標制度の役割を概説するとともに、商標法の目的、保護対象、登録要件、及び出願から登録までの手続き等を説明する。			
第5回： 意匠法（デザインの保護） ・ 情報化社会における意匠制度の役割を概説するとともに、意匠法の目的、保護対象、登録要件、及び出願から登録までの手続き等を説明する。			
第6回： 著作権法①（著作物の保護） ・ 情報化社会における著作権制度の役割を概説するとともに、著作権法の目的、保護対象、文化庁への登録手続き等を説明する。			
第7回： 著作権法②（著作権、著作者人格権、及び著作隣接権など） ・ 著作権、著作者人格権、及び著作隣接権について説明する。			
第8回： 不正競争防止法、独占禁止法（営業秘密等の保護） ・ 情報化社会における不正競争防止法、独占禁止法等の役割を概説する。営業秘密の保護の在り方や技術の標準化についても言及する。			

第9回：	知財情報の検索及び活用 ・ 特許情報プラットフォームをはじめとするDBを用いた知財情報の検索手法を説明するとともに、収集した知財情報の活用における重要な視点を概説する。
第10回：	情報化社会における情報の利用（知的財産の活用） ・ 知的財産権の移転、ライセンス等、知的財産の活用について説明する。
第11回：	権利侵害及び救済 ・ 知的財産権の侵害の態様、及び侵害者への対応措置、ならびに侵害追及された場合の対応措置について事例を交えながら説明する。
第12回：	知財活動に関するディスカッション ・ 前回までの講義内容をふまえて、実際に企業に必要とされる知財活動に関する事例についてディスカッション、発表を行う（協同学習）。事前学習として予め配布する問題を演習し、各設問について自己の意見をまとめておく。
第13回：	知的財産権に係る具体的紛争事例 ・ 特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、不正競争防止法等に係る実際の紛争事例を紹介し、紛争を未然防止するための知財活動について説明する。
第14回：	先端分野における知的財産 ・ 情報化社会を支える技術について、最新の知財構築事例を紹介する。
テキスト	
特に指定しない。授業において、適宜、資料を配付する。	
参考書・参考資料等	
各回の授業において適宜紹介する。	
学生に対する評価	
中間レポート（30%）、及び期末レポート（70%）により評価します。	

授業科目名： 情報倫理	教員の免許状取得のための の必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 會田 和弘
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
1. インターネット社会へのサイバー攻撃についての理解を深め、被害者だけではなく加害者（場合によって犯罪者）にならないように適正な技術的かつ法的対応ができる			
2. 現代社会でのプライバシーや著作権の保護の重要性を自覚し、それに関連する法律の内容を理解できる。			
3. 安全安心な情報社会の実現の為に、それぞれがとるべき倫理的態度について理解できる。			
授業の概要			
現在のネット社会は、ウイルス感染、ネットワークやサーバへの攻撃、架空請求詐欺や誹謗中傷、著作権侵害など、インターネット社会はさまざまな問題を抱えている。本講義では、まず「誰が」「なぜ」「どのような手法」で攻撃を行っているのかを整理する。そして、これらの脅威に対して、どのような対策がとられているかを技術・法律の面から整理する。その上で、倫理的対策の必要性を探る。			
その一方で、行き過ぎた個人情報や著作権の保護は、社会性や公共性、文化の発展に悪影響を及ぼす場合もある。それら例を検討し問題点を整理するとともに、活用と保護を両立させる必要性を理解し、その際に、どのような対策が必要であり、どのような倫理的態度が必要であるかを検討する。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回： イントロダクション 講義の進め方、インターネット社会の光と陰について。 インターネットが私たちにもたらした利便性や新しい生活やビジネスの展開の一方で起こっている「影」の部分の概観するとともに、「影」を整理分類するいくつかの視点について。			
第2回： 情報社会への攻撃と対策1「ユーザーへの攻撃」 詐欺、ウイルス感染、被害の実態などユーザーを騙す手法の解説とそれらへの対策方法について。			
第3回： 情報社会への攻撃と対策2「PCやネットワークへの攻撃」 ウイルスや不正侵入など、PCやネットワークへの攻撃の実態、実際の手法とそれらへの対策。			
第4回： 情報社会への攻撃と対策3「ネットワークサービスへの攻撃」 本授業を理解する為に必要なネットワーク技術に関する知識、Webアプリケーションなどネットワークサービスへの攻撃の実態と手法など。それらへ対策。			
第5回： 情報社会への攻撃と対策4「その他の技術的対策」 パスワードの管理、ユーザー認証、クライアント認証、暗号の活用など日頃から必要とされる技術的対策について。			
第6回： 情報社会への攻撃と対策5「情報セキュリティとは」 情報セキュリティが守るものは何か、情報セキュリティの手法とはどのようなものか、セキュリティポリシーとは何かについて。その中で使用されている「リスク」とは何か、そしてリスクが多重化している問題点について。			
第7回： 情報社会への攻撃と対策のまとめとグループワーク 第1から6回までの配布資料のうち「重要キーワード」をグループで用語集「インターネット社会と情報セキュリティを理解する為の28の用語」という形でまとめ、情報社会へのサイバー攻撃とその対策に関する理解を深める。			

第8回：	インターネット社会と法1「不正アクセス禁止法他」 ネット社会が進展に伴う法整備の必要性和例。不正アクセス禁止法、プロバイダ責任制限法、ウイルス作成罪の概要について。
第9回：	インターネット社会と法2「個人情報とプライバシーの保護」 個人情報漏洩事件の影響、ネット社会におけるプライバシーの保護の重要性、個人情報とプライバシー、個人情報の定義について。
第10回：	インターネット社会と法3「個人情報保護法の必要性和弊害」 個人情報保護法の概要、個人情報保護法の弊害、個人情報活用の必要性和その課題について
第11回：	インターネット社会と法4「著作権の基礎」 知的財産保護の重要性、著作権法の基礎、ネット時代の著作権保護の重要性について。
第12回：	インターネット社会と法5「著作権の保護と活用」 著作権をめぐる過剰な保護、著作物の2次使用のあり方と必要性和その課題、アメリカのフェアユースの概念、日本版フェアユースの可能性、コミックマーケットの社会的意義について。
第13回：	インターネット社会と情報倫理 技術的可能で法も規制しない行為、過剰な保護にどう対応するか、その時倫理が果たす役割や重要性について。
第14回：	インターネット社会と法のまとめとグループディスカッション 表現の自由などの人権に尊重しながら、プライバシーや著作権などを保護する際に課題になることについてグループディスカッションを行い、それら解消方法について各自の考えをまとめる。
テキスト 「情報セキュリティ入門 情報倫理を学ぶ人のために 改訂版（デジタル版）」 (佐々木良一監修 會田和弘著、共立出版)	
参考書・参考資料等 講義にてその都度紹介する。	
学生に対する評価 ・講義後に出題する[課題]50%、[レポート]40%、[積極的な授業態度]10%で評価する。 ・レポートは、正確で分かりやすい文章等の[レポートとしての基本]20%、[達成目標①]40%、[達成目標②および③]40%で評価する。	

授業科目名： 情報化社会とコミュニケーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 本郷 均
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 1. 「社会」と「情報」の構造について理解し、具体的に説明できる。 2. 「記号」と「コミュニケーション」の構造について理解し、具体的に説明できる。 3. 情報化社会の諸相について理解し、具体的に説明できる。			
授業の概要 この科目は、「情報化社会」の基本的な構成要素を理解し、コミュニケーションの構造について理解することを目的とする。			
授業計画（1コマ100分） 第1回： 「情報化社会」について考えるために(1)：そもそも「社会」とは何か？ 第2回： 「情報化社会」について考えるために(2)：「社会」の発達段階と言語の役割 第3回： 「情報」という言葉は、今、どのように使われているか？ 第4回： 「情報」という言葉は、どのように成立してきたか？ 第5回： 「情報」とは何か？前二回の分析を踏まえて、その定義を試みよう。 第6回： 「情報化社会」とはいかなる社会か？ 第7回： 記号について(1)：記号の構造と働きの仕組み。記号は、どのようにして「意味」を伝えるか？ 第8回： 記号について(2)：記号過程すなわちコミュニケーション過程について。 第9回： 記号について(3)：コードの高度化について 第10回： コミュニケーションは何をもたらすのか？「誤解」はどうして生じるか？ 第11回： 情報化社会の諸相(1)：広告について考える。 第12回： 情報化社会の諸相(2)：ブランドについて考える。 第13回： 情報化社会の諸相(3)：情報操作の諸様相 第14回： 情報化社会の諸相(4)：情報操作に対抗するために			
テキスト 使用しない。毎回資料を配付し、これをテキストとする。			
参考書・参考資料等 適宜指示する。			
学生に対する評価 達成目標 1 が 40%、2 が 40%、3 が 20%。 ・Web システムによる毎回の理解度確認課題：中間レポート：期末レポート＝ 30%：30%：40%			

授業科目名： コンピュータ基礎 および演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 末石 吾朗
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータの基本的な仕組みと各種の技術について、その概要を把握できるとともに、基本的なアルゴリズムや IoT などの全体像を知ること、コンピュータがどんな技術で実現されているのか納得し、たとえばコンピュータのソフトウェア概念の成立過程と OS の機能などを説明できることを目標とします。 1. コンピュータのハードウェアとソフトウェアが理解できる。 2. データベースやオブジェクト指向、ネットワーク、セキュリティなどの技術が理解できる。 3. システム開発の体系と手法が理解できる。 4. IoT や人工知能などの新しい動きが理解できる。			
授業の概要 コンピュータのハードウェアからソフトウェア、データベースやネットワーク、システム開発や、IoT、人工知能などの基本的・基礎的な概要を解説することで、コンピュータの構造や動作に関する基礎を身に着けることを目的とします。			
授業計画（1コマ100分） 第1回： ガイダンスとコンピュータの歴史 初期のコンピュータの技術からパソコン、インターネット、LAN、オブジェクト指向、スーパーコンピュータなどコンピュータの技術を概観します。 第2回： 値の表現と計算の原理。 2 進数や文字コード、メモリ、論理回路、負の値の表現、文字コードなど、コンピュータ内部でのデータの持ち方を中心に学びます。 第3回： コンピュータの構造と機械語。 CPU の動作と機械語、アセンブリ言語、演算回路、割り込みなど、コンピュータの仕組みを学びます。 第4回： OS とコンパイラ。 OS の始まりからパソコンの OS、多重プログラミング、仮想記憶、コンパイル言語など、OS の基礎を学びます。 第5回： パソコンの仕組みと周辺機器。 パソコンの歴史と構成から、CPU やメモリ、周辺機器、入出力装置、プログラム言語などパソコンの基礎を学びます。 第6回： 論理とアルゴリズム。 情報理論やチューリングマシン、論理式、情報量などから、構造化プログラミングと各種構造化チャート、およびにそのサンプルを学びます。 第7回： データ構造とアルゴリズム。 配列をはじめ、リスト、スタックなどのデータ構造と、選択ソートや挿入ソート、ヒープソート、線系探索、2 分探索などのアルゴリズムを学びます。			

第 8 回：	データベースと SQL。 データベースの特徴から正規化について、そして SELECT 文や INSERT 文、UPDATE 文、DELETE 分などの SQL 命令について学びます。
第 9 回：	オブジェクト指向と UML。 オブジェクト指向の特徴、考え方から、UML を用いたクラス図やユースケース図、シーケンス図の表記、デザインパターンについて学びます。
第 10 回：	システム開発と手法。 共通フレームの主ライフサイクル・プロセスに基づいて業務分析、要件定義と DFD や E-R 図などの手法、ソフトウェア方式設計・詳細設計、コード作成と単体テストの手法、ソフトウェア結合について学びます。
第 11 回：	情報通信と TCP/IP。 パケット交換や OSI 参照モデルなど情報通信の基礎から TCP/IP で用いられる IP や TCP、UDP、そして DNS や DHCP、SMTP などのプロトコルについて、さらに LAN に用いられるイーサネットの CSMA/CD などの技術について学びます。
第 12 回：	情報セキュリティ。 IPsec や SSL などのセキュリティ技術、ファイアウォールや VPN などの仕組み、SQL インジェクションなどの攻撃手法、公開鍵暗号などの暗号方式、デジタル署名などの認証技術、情報セキュリティマネジメントシステムなどのセキュリティ管理について学びます。
第 13 回：	IoT と無線通信。 IoT の概要からその発展の段階、エンドデバイスを実現する制御装置とそのインタフェース、センサ、アクチュエータ、さらにエンドデバイスを接続するセンサーネットワークや Wi-Fi と 5G などの無線通信について学びます。
第 14 回：	データ処理と人工知能。 ビッグデータと NoSQL、クラウドなどから、Google のデータ基盤やオープンソフトである Hadoop の概要について学ぶとともに、深層学習やクラスタリング、決定木などの人工知能の手法について学びます。 復習と学力考査。 コンピュータの技術について、2 進数から計算の仕組み、アルゴリズム、データ構造、データベース、オブジェクト指向、システム開発、情報通信、情報セキュリティ、IoT と無線通信、データ処理と人工知能について復習と学力考査を行う。
テキスト プリントを配布	
参考書・参考資料等 その他、適宜、講義中に紹介する	
学生に対する評価 授業貢献度 40%と学力考査 60%。	

授業科目名： 情報処理工学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古谷 涼秋 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 技術、高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報とコンピュータ (実習を含む。) ・ コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 1. ループ, 関数, クラスを使ったプログラミングができる。 2. 必要なモジュールを自分で調べ, 利用することができる。 3. データの処理方法 (アルゴリズム) をプログラムとして実装できる。			
授業の概要 情報処理工学 I では, Pythonを題材としてオブジェクト指向プログラムの基礎を学ぶ。 文法はC言語と似ているため, 時間をかけずにオブジェクト指向の基礎としてクラス、インスタンス、メソッドなどの概念に触れる。後半はPythonを使って, データ処理を学習する。			
授業計画 (1コマ100分) 第1回: ガイダンスとPython処理系のインストール 第2回: Pythonの操作環境に慣れる (1) : 起動・終了・簡単なプログラムの作成 第3回: Pythonの操作環境に慣れる (2) : 変数, 定数の理解 第4回: 文法 (1) : 制御構造 第5回: 文法 (2) : モジュールの利用 第6回: モジュールの利用とプログラミング例 (レポート課題) 第7回: numpyモジュールとコンピュータグラフィックス 第8回: 三次元空間の座標変換のアルゴリズム 第9回: 三次元空間の座標変換のプログラミング (レポート課題) 第10回: フーリエ変換のアルゴリズム 第11回: フーリエ変換のプログラミング (レポート課題) 第12回: 機械学習(1) : 教師付き学習 第13回: 機械学習(2) : CNNによる分類 第14回: 学力考査			
テキスト 「入門Python 3」 Bill Lubanovic著 長尾高弘 訳 オライリー・ジャパン			

参考書・参考資料等
その他、適宜、講義中に紹介する
学生に対する評価
レポート:学力考查 = 40%:60%

授業科目名： 情報処理工学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 宏史
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 技術、高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報とコンピュータ（実習を含む。） ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1．デジタル画像に関する処理及び解析方法について理解、説明ができる。 2．機械制御や有限要素解析のアルゴリズムやプログラミング手法を学び、説明ができる。 3．測定データを用いたシミュレーションの事例や活用方法を説明できる。			
授業の概要 先端機械工学分野では、精密な計測、高度な機械制御・シミュレーション、超精密加工が求められている。これらを実現するためには「情報」をいかに活用・応用するかが重要である。本講義では、情報（画像や位置情報）をセンサで取り込み、これをコンピュータで情報処理して、モータなどのアクチュエータに値（情報）で指令して動作を実現する一連のフローについて概略を理解し、利用できる情報処理手法にはどんなものがあるかなどについて説明する。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス 情報そして処理とは 第2回：デジタル画像処理の導入： 画像の基礎、カラー画像のデジタル化とMTF 第3回：デジタル画像処理技術： フィルター処理 第4回：デジタル画像解析： 数値的処理 実践的処理として2次元高速フーリエ変換 第5回：デジタル画像解析： 最適化処理、フット関数、動画像、圧縮 第6回：画像データの活用： CT、MRI、AI 第7回：画像処理ソフトウェア： Pythonとライブラリ活用 第8回：駆動装置の制御アルゴリズム： センサ 第9回：駆動装置の制御プログラムと実装： Arduino 第10回：有限要素解析のアルゴリズム： 基礎、構造解析、電磁場解析 第11回：有限要素解析のソフトウェア： 構造解析、電磁場解析 第12回：測定データからのシミュレーション1： 工業利用 第13回：測定データからのシミュレーション2： 医療応用 第14回：学力考査。目標達成度の確認、学んできたことについて振り返りを実施する。			

テキスト

毎回プリントを配付する。

参考書・参考資料等

その他、適宜、講義中に紹介する

学生に対する評価

学力考査（70％）および受講貢献度（30％）により総合的に評価する。

授業科目名： 制御工学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 壽憲 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1．フィードバック制御を説明できる 2．伝達関数を求めることができる 3．ブロック線図を描き、等価変換を行うことができる 4．過渡応答、周波数応答を計算することができる 5．安定判別を行うことができる 6．制御工学に関する専門用語を説明できる			
授業の概要 本講義では、制御工学のうち、その基礎となる古典制御理論の知識を修得することを目的とする。フィードバック制御の仕組みと、これを理解するのに必要な伝達関数、周波数応答などの概念を学ぶ。また制御系CADを使ったシミュレーション、制御器の設計が活発化していることに合わせ制御系CADの概要や基本的な使い方も紹介する。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：フィードバック制御の概念と制御工学の目的 第2回：モデリングと微分方程式 第3回：ラプラス変換と伝達関数 第4回：伝達関数と過渡特性 第5回：定常特性と応答の評価法、制御系CAD「MATLAB / Simulink」の紹介 第6回：伝達関数と周波数特性、制御系CADを使った過渡応答と周波数応答の描き方 第7回：微分方程式とブロック線図 第8回：ブロック線図の等価変換 第9回：高次の伝達関数の特性 第10回：極と応答の関係、および不安定現象 第11回：ラウス・フルビッツの安定判別法 第12回：ナイキストの安定判別法とゲイン余裕・位相余裕 第13回：比例制御ゲインと応答の関係、制御系CADを使ったシミュレーション 第14回：学力考査と解説			

テキスト

「制御工学 上」 (深海登世司・藤巻忠雄 監修、東京電機大学出版局)

参考書・参考資料等

その他、適宜、講義中に紹介する

学生に対する評価

毎週、演習問題を宿題として課し、その成績を35%、学力考査の成績を65%として評価する

授業科目名： 制御工学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 壽憲 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1．比例制御器の設計ができる 2．直列補償器とP I D制御器を説明し、調整することができる 3．システムの状態方程式を導くことができる 4．極配置法を使って状態フィードバック制御器を設計できる			
授業の概要 現在では比例制御を基本として、さらに高度なフィードバック制御が行われている。本講義では、古典制御論については、直列補償器、P I D制御器を、現代制御論については状態フィードバックとオブザーバの理論について修得することを目的とする。これに加えて必要な古典・現代制御論の知識、制御系C A Dを使った制御系設計の計算方法についても学習する。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ゲイン余裕と位相余裕による直列補償器の設計、制御系C A Dを用いた設計 第2回：M _p 規範とニコルス線図に基づく比例制御器の設計 第3回：マイナーループとP I D制御 第4回：P I D制御器の制御系C A Dを活用したシミュレーションと設計法、演習課題1 第5回：古典制御論と現代制御論 第6回：微分方程式とシステムの状態方程式 第7回：状態方程式の解とシステムの応答 第8回：状態方程式と伝達関数、固有値と安定判別 第9回：可制御性と可観測性 第10回：状態フィードバックと極配置による制御系設計 第11回：オブザーバと安定化 第12回：内部モデル原理とサーボ系の設計、演習課題2 第13回：最適制御、その他の制御 第14回：学力考查と解説			
テキスト 「初めて学ぶ現代制御の基礎」（江口 弘文、大屋 勝敬 著、東京電機大学出版局）			

参考書・参考資料等

その他、適宜、講義中に紹介する

学生に対する評価

授業期間中に2回、演習課題を宿題として課し、その成績を35%、学力考查の成績を65%として評価する

授業科目名： メカトロニクス概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三井 和幸
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 機械工学と電子工学および情報工学の融合によるメカトロニクスの基本となる論理回路、コンピュータ、アクチュエータ、センサ、そしてロボットの基本を学ぶことをテーマとする。また、下記を到達目標とする。 1. 要素技術であるコンピュータの構成、そしてその基本となる論理回路を理解できる。 2. 制御要素であるモータを初めとするアクチュエータ・各種センサの構造や原理・利用方法を理解し、さらにはこれらを総合的に応用したロボットの基本を理解できる。			
授業の概要 授業の前半の7回目までは、メカトロニクスの要素技術であるコンピュータや論理回路について講義を行い、後半の8回目から12回目までにおいて制御要素であるセンサやアクチュエータについて講義を行う。そして最後の2回でメカトロニクス技術を総合的に応用したロボットについて講義を行う。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：半導体とトランジスタについて学ぶ 第2回：トランジスタによるDCモータ駆動について学ぶ 第3回：論理回路の基本構造について学ぶ 第4回：論理回路の応用について学ぶ 第5回：2進数とbitとByte、パラレルデータとシリアルデータについて学ぶ 第6回：コンピュータ回路構成の基本、特にCPUとメモリについて学ぶ 第7回：コンピュータを構成する各部品間の接続や関係について学ぶ 第8回： コンピュータによるDCモータ駆動について学ぶ 第9回： D/Aコンバータ、A/Dコンバータについて学ぶ 第10回：角度・力・音・光・温度を検出する各種センサについて学ぶ 第11回：各種センサのマイコンへの接続について学ぶ 第12回：モータ以外のアクチュエータについて学ぶ 第13回：ロボットシステムの概要とロボットハンドを基本とした順運動学・逆運動学について学ぶ 第14回：学力考査			

テキスト 毎回資料を配付する
参考書・参考資料等 その他、適宜、講義中に紹介する
学生に対する評価 学力査査結果（100％）により評価する

授業科目名： 情報システムの基礎および演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石田 厚子
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 現在の情報システムが世の中に与える影響を理解し、有効な利用の実践と他者への教示ができる。 2. 情報システムがどのような仕組みで作られるかを理解し、他者に教示できる。 3. 自ら集めたデータを E x c e l を使って分析する実習を通じて、情報処理の仕組みを知り、簡単なデータベースを作って利用できる。 4. 今後の情報システムの姿を想像力を働かせてイメージできる。			
授業の概要			
情報システムの最新の動向とそこに至った歴史を理解し、情報システムが世の中にどのような価値を提供するのか、今後どのような方向に向かうのかを考える。さらに、データの収集、分析の演習を通じて情報システムの仕組みを理解する。			
授業計画（1 コマ 100 分）			
第 1 回： 本講義の目的と内容の紹介。 最新の情報システムの事例紹介。（企業の情報共有、災害対策システム、地球観測衛星システム 他）			
第 2 回： 情報システムの定義と発展の歴史。 情報システムの事例紹介。（情報システム統合、タブレット端末活用例 他）			
第 3 回： 経営問題解決のために情報システムはどう使われているか。 情報システムの事例紹介。（グローバル企業のシステム、自治体のシステム、鉄道情報システム 他）			
第 4 回： 演習（1）E x c e l の基本操作			
第 5 回： 新しい分野の情報システム。 情報システム事例紹介。（人工衛星による位置情報システム、デジタルペンの利用、スマートフォンの活用 他）			
第 6 回： 情報セキュリティの課題と解決策。 「情報漏えい」の発生頻度と世の中に与える影響。 情報セキュリティのための新技術紹介。			
第 7 回： 演習（2）E x c e l によるデータの分析。 簡単なデータベースを作る。			
第 8 回： 情報システムの開発方法論と支援ツールの紹介。 生産性向上、保守性向上の追求から「作らない開発」への変遷を見る。			
第 9 回： 情報システムの開発とモデル化。 ビジネスモデルからデータモデルまでを具体例で紹介する。			
第 1 0 回： 演習（3）E x c e l によるデータの分析と発見。 国勢調査のデータを使って、仮説を立てて、分析して検証することを理解する。			
第 1 1 回： 要求分析の方法と実践。 候補課題から一つを選び、要求分析を行う。			

第12回： これからの情報システムの進む方向性。 ハード ⇒ ソフト ⇒ サービス の流れを理解する。 情報システムの事例紹介。（ユニバーサル・システム 他） 第13回： これからの情報システムを支える技術の紹介。 情報システムの事例紹介。（クラウドを利用したシステム、ビッグデータの活用） 第14回： 情報システムを担う人材の育成方法の紹介。 学力考査（期末時）および解説
テキスト 毎回テキストを配布する。
参考書・参考資料等 その他、適宜、講義中に紹介する。
学生に対する評価 課題レポート（毎回の講義の最初に前回出した課題に対して実施）、演習レポート（Excel を使ったデータの分析）、学力考査、により評価する。 評価の基準は、課題レポート（30%）、演習レポート（30%）、学力考査（40%）

授業科目名： 精密測定法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：
			担当形態：
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1．代表的なセンサの原理について説明できる.			
2．最小二乗法の計算ができる.			
3．分散分析の計算ができる.			
授業の概要			
この講義は、「精密測定法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識を基に、測定の原理及びセンサ技術とそのシステム化について扱う。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：復習&導入：測定の基礎的な考え方について講義する。			
第2回：不確かさ			
第3回：計測のシステム化			
第4回：電気要素（1）：電気抵抗，渦電流による変位情報の取得			
第5回：電気要素（2）：コンデンサによる変位情報の取得			
第6回：光による計測（1）：幾何光学による測定の基礎			
第7回：光による計測（2）：三角測量による座標情報の取得（レポート課題）			
第8回：干渉計測（1）：波動光学の基礎			
第9回：干渉計測（2）：レーザー干渉計による変位情報の取得（レポート課題）			
第10回：データ処理（1）：線形一次元の最小二乗法			
第11回：データ処理（2）：非線形多次元の最小二乗法（レポート課題）			
第12回：データ処理（3）：分散分析（レポート課題）			
第13回：実験計画法			
第14回：学力考査			
テキスト			
「計測工学」（前田良昭他著、コロナ社）			
参考書・参考資料等			
「計測の科学的基礎」（高田誠二著、コロナ社），「計測における不確かさの表現のガイド」（飯塚幸三監修、日本規格協会），「計測の信頼性評価」（今井秀孝編、日本規格協会），「エ			

エンジニアのための計測技術」（日野太郎他訳、朝倉書店）,「工業計測演習」（和田尚他著、工学図書）

学生に対する評価

レポート：学力考査=50%:50%

授業科目名： 情報通信ネットワークの基礎および演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 末石 吾朗
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 情報通信ネットワークに関する専門用語の意味を理解できる。 2. インターネットについて、プロトコル等の要素技術の概要と課題について説明できる。 3. コンピュータネットワークの動作環境についての情報を調べることができる。 4. O S I 参照モデルについて理解し、実際の通信における各処理と O S I 参照モデルとの対応を説明できる。 5. WWWが動作する仕組みを理解し、画像表示等が可能なホームページを作成できる。			
授業の概要			
情報通信ネットワークの仕組みとその基礎技術を習得する。まず、情報通信ネットワークの概要を説明する。その後、情報通信ソフトウェア、例えば電子メール、ウェブブラウザなどを取り上げて、その動作原理などを説明する。			
授業計画（1 コマ 100 分）			
第 1 回： ガイダンス ネットワークの歴史 情報通信ネットワークの概要			
第 2 回： 伝送と交換 アナログ伝送、ディジタル伝送、回線交換、パケット交換など			
第 3 回： プロトコル OSI 参照モデル、TCP/IP コンピュータネットワークの構成と特徴			
第 4 回： LAN LAN の原理、メディアアクセス制御、LAN 間接続装置			
第 5 回： TCP/IP IP, CIDR, アドレス, TCP, UDP, ポート番号, NAT など			
第 6 回： インターネットのプロトコル 1 DNS, DHCP, ICMP, ARP など			
第 7 回： インターネットのプロトコル 2 SMTP, POP3, HTTP, cookie, CGI など			
第 8 回： セキュリティ 公開鍵暗号方式と共通鍵暗号方式, 公開鍵基盤, 認証など			
第 9 回： インターネットセキュリティ 1 IPsec, SSL, RADIUS, S/MIME, VPN など			
第 10 回： インターネットセキュリティ 2 マルウェア、不正アクセス、ファイアウォール, プロキシサーバ, 侵入探知, 侵入防止など			
第 11 回： 無線ネットワーク 無線ネットワークの概要、1 次変調、2 次変調、WiFi, 無線のセキュリティなど			

第 12 回：	移動通信 携帯電話、LTE と 5G の技術、仮想化、PAN
第 13 回：	ネットワークアクセス演習 ネットワークを操作するコマンドなど
第 14 回：	Web 作成演習 HTML を用いた Web ページの作成の基本 復習と学力考查 ネットワークについて伝送と交換、LAN、プロトコル、TCP/IP、セキュリティなどの復習と学力考查
テキスト プリントを配布	
参考書・参考資料等 その他、適宜、講義中に紹介する	
学生に対する評価 授業貢献度 40%と学力考查 60%。	

授業科目名： マルチメディア表現技術の基礎および演習	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 古川 貴雄
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 情報)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 撮像デバイス、ディスプレイなどのマルチメディアに関するハードウェア技術について、基本的な原理を理解して客観的に説明できる。 2. 映像や音声の符号化など、マルチメディアに関する信号・データ処理について、基本的な原理を理解して客観的に説明できる。 3. コンピュータグラフィックスにおけるジオメトリ、アニメーション、レンダリング等について、基本事項を理解して客観的に説明できる。 4. 3D グラフィックス API を使用して、Web ブラウザ上で動作する 3D コンピュータグラフィックスのコンテンツを作成できる。			
授業の概要 マルチメディアに関係する技術を基礎から応用まで幅広く理解して習得することを授業の目的とする。講義に加えてマルチメディア処理の演習を行い、実際にマルチメディア表現技術を修得する。			
授業計画（1 コマ 100 分）			
第 1 回： 【ガイダンス・マルチメディアについて】 まず、授業の概要、進め方、評価等の予定について確認する。 次に、マルチメディアの定義、歴史について学びし、マルチメディア関連の最新研究の動向を把握する。			
第 2 回： 【光・色】 映像情報を構成する光・色の物理的な特徴について整理する。 電磁波と可視光、黒体放射のスペクトルと色温度の関係、等色関数と表色系・色空間の特徴を理解し、マルチメディアコンテンツとの関係について考える。			
第 3 回： 【視知覚】 ヒトの視細胞の種類と機能、生物における視知覚の特徴、ヒトとの相違点について理解し、生物による映像の情報処理について考える。 色覚多様性とカラーユニバーサルデザインの考え方を理解し、マルチメディアコンテンツとの関係について考える。			
第 4 回： 【撮像デバイス】 撮像デバイスの基本原理となる半導体の光電変換について理解するために、金属・半導体・絶縁体、p・n 型半導体における価電子と正孔、pn 接合等について学ぶ。 次に、固体撮像素子を構成する電界効果トランジスタ、CMOS センサの機能と特徴を理解し、映像の撮影との関係について考える。			
第 5 回： 【表示デバイス】 陰極線管を用いた映像表示の基本原理となる電磁界の制御方法について理解し、その特徴について学ぶ。 液晶ディスプレイにおける映像表示の基本原理となる偏光と偏光フィルムの特徴について理解し、液晶・液晶相の種類と特徴、液晶ディスプレイの駆動方式について学ぶ。 加えて、電子ペーパーや OLED ディスプレイにおける映像表示の基本原理についても理解し、各種表示デバイスと映像提示の関係について考える。			

- 第6回： 【マルチメディアデータの符号化】
映像・音声信号の標本化と量子化、データ圧縮技術の基本的な内容について理解する。
映像・音声のデジタルフォーマットの種類と特徴を理解し、マルチメディアコンテンツの制作・提示とマルチメディアデータの関係について考える。
- 第7回： 【コンピュータグラフィックス】
コンピュータグラフィックスの歴史と、ジオメトリ、アニメーション、レンダリング、イメージングといった領域とその特徴について理解する。
コンピュータグラフィックスによる映像の生成方法と最新の研究動向を把握し、具体的なコンピュータグラフィックスの応用について考える。
- 第8回： 【World Wide Web: WWW】
WWWの歴史、サーバ・クライアント、ウェブブラウザ、および、HTML/JavaScriptについて理解する。
実際に、エディタから起動可能から簡易ウェブサーバを利用して、作成したHTML/JavaScriptの動作を確認して理解を深める。
- 第9回： 【3D グラフィックス API】
高レベル 3D グラフィックス API である Three.js を利用する HTML/JavaScript のファイルを作成し、3D コンピュータグラフィックスのコンテンツをウェブブラウザ上で表示して理解を深める。
シーングラフ、カメラモデル、カラー指定を理解し、実際に簡単な 3D コンピュータグラフィックスのコンテンツを制作して理解を深める。
- 第10回： 【3D CG の基本的な反射モデル】
拡散反射の Lambert モデル、2 色性反射の Phong モデルの数理モデルについて理解し、高レベル 3D グラフィックス API の Three.js を用いて各モデルのレンダリングを行う。
実習課題に取り組むことで、3D CG の基本的な反射モデルの理解を深める。
- 第11回： 【3D CG のテクスチャマッピング】
テクスチャマッピング・バンプマッピングの手法とテクスチャ座標系との関係を理解し、高レベル 3D グラフィックス API の Three.js を用いてテクスチャマッピング・バンプマッピングのレンダリング結果を確認する。
さらに、ビデオテクチャを使用したテクスチャマッピングの手法についても理解する。
実習課題に取り組むことで、3D CG の各種テクスチャマッピング手法についての理解を深め、これらを応用したコンテンツについて考える。
- 第12回： 【3D CG のライト・シャドウ】
ディレクショナル、スポット、ポイント、長方形領域ライトのモデル、および、シャドウマッピングの手法を理解する。
高レベル 3D グラフィックス API の Three.js を用いて、各種ライト、および、シャドウマッピングのレンダリング結果を確認して理解を深め、ライトやシャドウを利用した 3D CG のコンテンツについて考える。
- 第13回： 【3D CG のインタラクション】
シーングラフにおける複数オブジェクトやライトの記述、階層化の方法、インタラクションを行うためのコントロールとレイキャスティングを用いたマウスピッキングの手法を理解する。
高レベル 3D グラフィックス API の Three.js を用いて、複数オブジェクトやライトを使用したシーンのレンダリング、コントロールとマウスピッキングの動作を確認して理解を深め、インタラクティブな 3D CG のコンテンツについて考える。
- 第14回： 【3D CG の環境マッピング】
環境マッピングの手法を理解して、高レベル 3D グラフィックス API の Three.js

を用いてキューブ環境マッピングを行う。 反射モデルと環境マッピングの関係を確認し、環境マッピングを応用した 3D CG のコンテンツについて考える。 【コンテンツ制作】 高レベル 3D グラフィックス API の Three.js を用いた、マルチメディアコンテンツを制作する。
テキスト 市販の教科書は使用しない。 講義資料は Web 上から参照できるようにする。
参考書・参考資料等 その他、適宜、講義中に紹介する。
学生に対する評価 課題提出物（70％）、および、レポート（30％）により成績を評価する。

授業科目名： 機械設計製図Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三井 和幸 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 機械の設計を行う場合に必要となる製図の基本的ルールを学ぶとともに、手書き製図による図面作製を基本に、情報工学を機械設計に応用したツールであるCADの基本までを学ぶことをテーマとする。また、下記を到達目標とする。 1．部品図・組立図：物の作製に必要な部品図および組立図の作成方法・関係を理解し、実際に作製可能な機械部品の図面 の作成ができる。 2．パソコンを使用したCADの基本点な操作方法を理解し、実際にCADを使って簡単な機械部品の図面の作成ができる。			
授業の概要 授業の前半の8回目までは手書製図による実際の機械部品の部品図や組立図の作成についての実習を行い、後半の9回目・10回目に、実際にパソコンを用い、2次元CADの操作方法の基本を学んだ後、残りの11回目から14回目で実際の機械部品の部品図や組立図の作成についての実習を行う。			
授業計画（1コマ100分）※各回2コマ 第1回：フランジ型固定軸継手の部品図の作成 1回目：締結用ボルト部品図の作成 第2回：フランジ型固定軸継手の部品図の作成 2回目：継手本体(1)の部品図の作成 第3回：フランジ型固定軸継手の部品図の作成 3回目：継手本体(2)の部品図の作成 第4回：フランジ型固定軸継手の組立図の作成 第5回：実際の豆ジャッキについてスケッチによる実物の形状の測定 第6回：スケッチデータに基づく豆ジャッキの部品図の作成 1回目：トップピースおよび送りねじの部品図の作成 第7回：スケッチデータに基づく豆ジャッキの部品図の作成 2回目：豆ジャッキ本体の部品図の作成 第8回：部品図を基にした豆ジャッキの組立図の作成 第9回：2次元CADの立ち上げ方法から線や文字そして図形の作成方法の学習 第10回：実際の表題欄作成による寸法の値から図形の描き方の学習を行った後、立方体や円柱・円錐を対象とした投影図作成方法の学習 第11回：2次元CADによる六角ボルト・六角ナットの部品図の作成 第12回：2次元CADによる2枚の板を六角ボルトと六角ナットで締結した組立図の作成			

第13回：2次元CADによるフランジ型固定軸継手の部品図の作成

第14回：2次元CADによるフランジ型固定軸継手を構成する各部品を組み上げた組立図の作成

テキスト

「新編JIS機械製図」（吉澤武男編、森北出版）および配付する資料

参考書・参考資料等

その他、適宜、講義中に紹介する

学生に対する評価

提出された図面の内容（100％）により評価する

授業科目名： 先端機械設計製図I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 宏史 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (1) CADの操作ができる。 (2) 立体形状を三面図により表現できる。 (3) 三面図で描いた図面から立体形状を想像できる。			
授業の概要 設計は、材料工学、材料力学、機械力学、加工法などの関連工学知識を活用、総合して所望の性能を持つ機械や構造物を実現させるための創造活動であって、これを製図によって表現することである。本科目は、機械設計製図、および学習中の機械設計学、先端精密機械加工などと関連させて、以下に示したような簡単な品物の設計および製図を課し、設計製図の実力の養成を目標とする。特に、日本工業規格（JIS）に基づく製図ルールの理解、およびCADによる設計・製図の基礎能力養成を目的とする。			
授業計画（1コマ100分）※各回2コマ 第1回：ガイダンス：CADシステムの設定確認、CADの基礎操作確認 第2回：プレス加工品の設計Ⅰ 打ち抜き、曲げ加工品の設計 第3回：プレス加工品の設計Ⅱ 鍛造、プレス成形加工品の設計 第4回：切削加工品の設計Ⅰ 旋盤加工を主加工とする切削加工品の設計 第5回：切削加工品の設計Ⅱ フライス盤加工を主加工とする切削加工品の設計 第6回：切削加工品の設計Ⅲ 旋盤、フライス盤、ボール盤によるやや複雑な加工品の設計 第7回：組立相手がある場合の設計、はめあい 第8回：研削加工品の設計 第9回：総合力を見る課題 第10回：課題の説明（ガイダンス、授業予定の概要説明、各自課題の説明）板取りの計画図 第11回：丸パンチの設計・製図 第12回：ダイブッシュ、ロックアウト関係の設計・製図 第13回：外形抜きダイの設計・製図 第14回：外形抜きパンチの設計・製図			
テキスト 「新編JIS機械製図」（吉澤武男編著、森北出版）、毎回プリントを配付する。			

参考書・参考資料等

必要に応じてJIS規格を参照すること。

学生に対する評価

授業毎に製図の課題を提出し、その出来具合を積算して評価（100％）する。

毎回の製図課題を提出してもらい、添削してフィードバックする。完成していない場合などは再提出とするので、次週の授業までに完成させて必ず再提出すること。

授業科目名： 先端機械設計製図Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柳田 明 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (1) プレス抜型(金型)の部品の寸法公差やはめあい、表面粗さを選択できる(2次元)。 (2) 部品図との整合性をとりながら、組立図を製図して、図面の読解力を身につける(2次元)。 (3) CADの部品図データを基に、組立図や組立構造の説明図を作成できる(3次元)。			
授業の概要 設計は、機構学、材料工学、工業力学、材料力学など多くの力学、加工法などの関連工学知識・資料を活用し、総合して所望の性能を持つ機械や構造物を実現させるための創造活動であって、これを製図によって表現することである。ここでは、機械設計製図Ⅰ、Ⅱ、先端機械設計製図Ⅰ、および機械設計学、精密測定法、先端精密機械加工などに関連させて、設計製図の実力の養成を目標とする。特に、工業材料および各種工作法の選択活用力、および2次元、3次元CADによる設計・製図能力の育成に留意する。			
授業計画（1コマ100分）※各回2コマ 第1回：外形抜きパンチの設計・製図 第2回：パンチプレートおよびバックリングプレートの設計・製図 第3回：ストリップの設計・製図 第4回：部品図の固有課題の整理およびばねの設計 第5回：ダイセットの設計・製図 ダイホルダ，パンチホルダの設計・製図 第6回：総組立図の設計・製図① レイアウト図の作成，部品図の向きの確認 第7回：総組立図の設計・製図② 部品図の単純な組み合わせ(正面図) 第8回：総組立図の設計・製図③ 陰線消去処理と部分断面図，側面図 第9回：三次元CADによる立体の作図の基本(押出し、回転による立体図形の作図，スケッチによる追加) 第10回：三次元CADによる立体の作図(ドリル穴、ねじ穴の描き方，円柱面の接面への作図) 第11回：三次元CADによる立体の作図(曲線、自由曲面を持った物体の作図，アセンブル) 第12回：三次元製図図面をデータベースとした二次元三面図の作成 第13回：三次元立体組み立て構成説明図の作成と内面くり抜き立体の作画技術 第14回：まとめと学力考査（3次元CADを利用した学力考査を実施する）			

テキスト
「新編JIS機械製図」 （吉澤武男編著、森北出版）、毎回プリントを配付する。
参考書・参考資料等
必要に応じてJIS規格を参照すること。
学生に対する評価
授業毎に製図の課題を提出し、その出来具合の積算を50%と学力考査を50%として評価する。 毎回製図課題を提出してもらい、添削してフィードバックする。完成していない場合などは再提出とするので、次週の授業までに完成させて必ず再提出すること。

授業科目名： 光学応用機器	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 宏史 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 人間の目の構造、視力の定義を説明できる。 (2) 結像を利用した光学応用機器（顕微鏡、望遠鏡、カメラ、コピー機）の原理を説明できる。 (3) 光ファイバーとレーザーの原理、特徴、種類を説明できる。			
授業の概要			
光学応用機器とは光の特徴を応用した機器を意味している。従来は望遠鏡、顕微鏡、カメラ等、幾何光学の原理に則り、レンズを用いて光像を作ることの特徴とする機器がその中心であった。しかし、最近になって、レーザー光、各種光センサ、光ファイバー等を応用した新しい機器が続々と登場してきた。また、レンズを用いる技術も微細な半導体集積回路製造やコピー機械等、一層精密で高機能な機器に応用されるようになってきている。本教科は、これらの中から代表的な光学機器を幾つか採り上げ、光学の観点から見た原理と対応づけながら学ぶことにより、光学応用機器の基本と各種変化形態に関する知識を付けることを目的とする。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：目の仕組み：光に感応する優れたセンサである人間の目の仕組みを学習する。 眼鏡：視力の矯正と眼鏡の役割について学習する。			
第2回：目の解像度：開口による光の回折現象との関連のもとに目の解像度について学習する。			
第3回：レーリーの解像限界について学習する。			
第4回：ルーペ：ルーペによる拡大観察の原理や拡大倍率等について学習する。			
第5回：顕微鏡：顕微鏡の原理、拡大率、解像限界等について学ぶ。代表的な照明光学系についても学習する。			
第6回：望遠鏡：望遠鏡の原理、顕微鏡との特徴の違い等について解説する。			
第7回：反射望遠鏡：楕円面、双曲面、放物面の使い方とそれを応用した反射望遠鏡について学習する。			
第8回：カメラ：カメラの原理、種類等について学ぶ。			
第9回：カメラ：Fナンバー、焦点深度、画角などについて学習する。			
第10回：コピー機：コピー機の変遷と各コピー機の原理を学習する。			
第11回：レーザープリンタ：レーザービームの走査光学系等を学び、プリンタへの応用を通してレーザー走査の特徴を学習する。			

第12回：光ファイバー：光ファイバーの構造、光伝達原理、開口数について説明する。また、代表的な応用である通信用ファイバーと内視鏡用ファイバーを採り上げ、比較しながら光ファイバーの特徴を学習する。

第13回：レーザ：レーザ光の発生、種類や用途を学習する。

第14回：学力考査。目標達成度の確認、学んできたことについて振り返りを実施する。

テキスト

「光技術入門[第2版]」（堀内敏行著、東京電機大学出版局）

参考書・参考資料等

その他、適宜、講義中に紹介する

学生に対する評価

学力考査（70%）および受講貢献度（30%）に総合的に評価する。

授業科目名： 情報と職業	教員の免許状取得のための の必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石田 厚子
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	教科に関する専門的事項 ・ 情報と職業		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 情報通信技術の進展に伴う職業や社会生活の変化について理解し、説明することができる。 2. 企業における ICT 環境を利用した事例とこれらを支える人材について理解し、説明することができる。 3. 学校現場で実践される進路指導(キャリア教育)の意義や役割を理解し、説明することができる。			
授業の概要			
情報通信技術の進歩に伴い、社会のさまざまなシステムの情報化は想像を超える規模・速度で進展している。これからの情報社会を生きるためには、日常生活や職業生活において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用する能力が必須になっている。また、情報化の進展に伴う産業構造や就業構造の変化は、職業や雇用のありようにも大きな変化をもたらしている。 本講座は、高等学校の教科「情報」の免許取得の必修修科目であることも踏まえ、情報通信技術が企業の経済活動や私たちの社会生活に果たす役割や影響について考え、情報社会における職業の在り方を探るとともに、高等学校における進路指導の意義や役割についても学習する。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回： 目的と概要、スケジュール ・ 情報教育の位置づけ ・ 「情報と職業」の講義の概要 ・ 講義の進め方とスケジュール ・ 事例紹介：IT を使った労働衛生管理			
第2回： キャリアと雇用（1） ・ 雇用のミスマッチとは ・ 雇用の流動化 ・ ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用 ・ 事例紹介：雇用に関する最近の話題			
第3回： キャリアと雇用（2） ・ キャリアに関する問題提起 ・ 学びなおしが求められる理由 ・ 人材の流動化 ・ ビジネスの変化 ・ 事例紹介：キャリアに関する最近の話題			
第4回： 職場の情報化（1） ・ 働き方改革 ・ テレワークの功罪 ・ RPA（オフィスワークのロボット化） ・ 事例紹介：AI チャットボットの活用			
第5回： 職場の情報化（2） ・ デジタル化と DX(デジタルトランスフォーメーション) ・ 生産性の考え方			

	・情報セキュリティの重要性 ・事例紹介：DXに関する最近の話題
第6回：	情報化の進展（1） ・金融業界 ・流通業界 ・教育分野 ・事例紹介：トラック輸送の効率化
第7回：	情報化の進展（2） ・製造業界 ・公共分野 ・日本のデジタル化の課題 ・事例紹介：災害時の被災情報収集
第8回：	中間学力考查 前半で学力考查を行い、後半に解説をする。
第9回：	情報セキュリティ（1） ・情報漏洩の影響と対策 ・IoTの情報セキュリティ ・事例紹介：IoTのセキュリティに関する最近の話題
第10回：	情報セキュリティ（2） ・不確実情報の拡散とその影響 ・SNS 大手の取り組み ・AI は情報の正確性を見極められるか ・事例紹介：情報拡散問題に関する最近の話題
第11回：	産業と生産性向上（1） ・生産性向上の課題と解決策 ・RPA はどこまで浸透したか ・人件費削減と雇用問題 ・事例紹介：建設現場の遠隔管理
第12回：	産業と生産性向上（2） ・生産性向上と価値創造 ・価値創造とAI の活用 ・事例紹介：クラウドの活用によるIT 業界の働き方改革
第13回：	情報を扱う人材の育成 ・情報を活用する人材の育成 ・情報システムを作る人材の育成 ・事例紹介：学びなおしに関する最近の話題
第14回：	期末学力考查 前半で学力考查を行い、後半に解説をする。
テキスト 毎回テキストを配付	
参考書・参考資料等 「週刊日経ビジネス」（日経BP）、新聞など	
学生に対する評価 中間学力考查：期末学力考查：課題レポート ＝ 30%：40%：30%	

授業科目名： 情報科教育法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 4 単位	担当教員名： 黒沢 学、土肥 紳一 担当形態： クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 情報科教育の理念と目標について学習指導要領に沿って説明できること 2. 情報科の年間・単元・本時指導計画をたてられること 3. 情報科の教科内容について、深い理解を伴って、相手にあわせて説明できること 4. 情報科教員としての研鑽の方法を身につけること 5. 情報通信技術とその教育への活用法を知り、実際に活用する技術を身につけること			
授業の概要			
当たり前の話だが、単にコンピュータの使い方を教えるのが情報科なのではない。では、現代の高校生に情報に関する科目を教える意義はどこにあるのか。この講義ではまず、なぜこれから「情報」という科目が必要なのかについて、その成立の経緯を学びながら考察する。その後、学習指導要領と検定教科書を分析して情報に関して何をどこまで教えるべきか（カリキュラム分析と年間指導計画の作成）、それをどのように伝達・涵養するか（教材研究法）、その際に注意しなければならないことは何か（本時案作成と授業実習）、などを、講義と実習を適宜組み合わせながら学ぶ。一通り授業作りを経験した後は、それを上手に行うために、教材分析・指導案作成・授業実施・反省を数サイクル繰り返す。そうした中で同時に、情報機材利用の基礎的な能力も育まれていくだろう。			
授業計画（1 コマ 100 分）			
第 1 回： ガイダンス，出発点の確認 現代の高校生に必要な情報教育とは何か考える。			
第 2 回： 日本における情報教育の展開(1) 情報化社会の進展とともに情報と情報教育に対する見方がどのように変わったかを学ぶ。			
第 3 回： 日本における情報教育の展開(2) 現代の情報教育の目標とそれに対する情報通信技術の活用の意義について学ぶ。			
第 4 回： 情報教育の目指すもの 現在の学習指導要領の内容を分析するとともに情報通信技術を活用する方法について考える。			
第 5 回： 学習指導案(1) 学習指導案とは何か， 学習指導案とは何かを学び，年間指導計画の意義とその作成のしかたを考える。			
第 6 回： 学習指導案(2) 年間指導計画から本時案へ 単元指導計画と本時案とは何かを学び，その意義と作成のしかたを考える。			
第 7 回： 年間指導計画の作成実習 教材を分析して実際に年間指導計画を立てる。			
第 8 回： 年間指導計画の検討とルーブリック ルーブリックとは何かを知り，作成した年間指導計画に基づきルーブリックを作成する。			
第 9 回： 本時案の作成(1) 本時案の作成実習(1) 単元から本時までの指導案の作り方を知り，実際に作成する。			
第 10 回： 本時案の作成(2) 本時案の作成実習(2) 指導案の基づいて授業の練習を行い，本事案の問題点について考え修正する。			
第 11 回： 模擬授業(1) 情報 I・コミュニケーションと情報デザイン			

	情報通信技術を活用した模擬授業を行い、そののちその授業を振り返り、指導案を修正する。
第12回:	模擬授業(2) 情報 II・情報社会の進展と情報技術 情報通信技術を活用した模擬授業を行い、そののちその授業を振り返り、指導案を修正する。
第13回:	模擬授業の反省 授業の合評を踏まえた指導案に基づき修正した部分を実際に行ってみる
第14回:	情報通信技術の利活用(1) 近年の情報通信技術の発達に伴い可能になった教育の方法とその利点について学ぶ
第15回:	情報通信技術の利活用(2) 教育に応用される近年の情報通信技術のうち、双方向性コミュニケーションシステムやビッグデータを活用するインテリジェントテストなどの代表的なシステムを体験しその活用法を学ぶ
第16回:	学校情報システムの利用と管理(1) 学校に導入されている教育用システムの概要を学び、それを管理運営するための方法を考える。
第17回:	授業作り実習(A1) 情報 I・情報通信ネットワークとデータの活用 情報 I の情報通信ネットワークとデータの活用単元について、教材研究を元に単元指導計画・本事案を作成する実習を行う
第18回:	授業作り実習(A2) 情報 I・情報通信ネットワークとデータの活用 当該単元についてマイクロティーチングを行い、相互に授業を行ったり観察したりする実習を行う
第19回:	授業作り実習(B1) 情報 II・情報とデータサイエンス 情報 II の情報とデータサイエンス単元について、教材研究を元に単元指導計画・本事案を作成する実習を行う
第20回:	授業作り実習(B2) 情報 II・情報とデータサイエンス 当該単元についてマイクロティーチングを行い、相互に授業を行ったり観察したりする実習を行う
第21回:	授業作り実習(C1) 情報 I・コンピュータとプログラミング 情報 I のコンピュータとプログラミング単元について、教材研究を元に単元指導計画・本事案を作成する実習を行う
第22回:	授業作り実習(C2) 情報 I・コンピュータとプログラミング 当該単元についてマイクロティーチングを行い、相互に授業を行ったり観察したりする実習を行う
第23回:	マイクロティーチングの振り返り これまでのマイクロティーチングを振り返り、授業作りを行う上での注意すべきことがらや自分の授業の特徴などについて考える
第24回:	模擬授業準備 グループに分かれ、情報 II 情報システムとプログラミング単元について、教材研究を元に単元指導計画・本事案を作成する実習を行う
第25回:	模擬授業(1) 情報 II 情報システムとプログラミング単元について模擬授業を行い、そののちその授業を振り返り、指導案を修正する。
第26回:	模擬授業(2) 情報 II 情報システムとプログラミング単元について模擬授業を行い、そののちその授業を振り返り、指導案を修正する。
第27回:	学校情報システムの利用と管理(2) 学校に導入されている教育用システムの概要を学び、それを管理運営するための方法について議論してまとめる。また今後の情報教育のありかたと自分の情報科

教員としての研鑽の方法について考える. 第28回: 全体のまとめ
テキスト ・高等学校学習指導要領解説情報編（平成30年7月、文部科学省） ・情報の検定教科書
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 平常点と授業への参加（70％）・ポートフォリオによる最終成果物（30％）を統合して評価する。

授業科目名： 介護福祉論	教員の免許状取得のための 選択科目（高等学校）	単位数： 2 単位	担当教員名： 加藤 英池子
			担当形態： 単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1. 人間の発達・健康・障がい・生活の概念を述べることができる。 2. 介護を必要とする人間の心身の特徴を説明することができる。 3. 介護活動の場の現状を知り、介護福祉のあり方を考えて発表することができる。			
授業の概要 「今を生きる私たち」と「介護福祉」は結びついています。介護は、限られた人の営みではなく、年代や性別を超え多くの人々の人生のいずれかの時期に遭遇するもので、みなさん自身の未来にも繋っていると言えるでしょう。 また介護を必要としている人に対して、家族や介護職と共に様々な人々が連携し支援をしています。理工系の分野においても福祉用具・介護ロボット・住宅や地域づくりなど、高齢社会の中で、できるだけバリアフリーで、快適な生活を共に創り上げていこうとしています。本科目は、人間とその生活を見つめ、介護福祉をよりよく理解することを目的としています。そして介護の具体的技術をも通して、自立的に「安心」できる暮らしと、社会を創造していく手立てをみなさんと共に考えてみたいと思います。自分なりの介護福祉観を育んでみましょう。			
授業計画（1コマ100分） 第1回： ガイダンス・介護福祉の概要（介護体験とは何か 演習：介護を受けること、介護をすること） 第2回： 介護福祉の理念（自立生活支援・ノーマライゼーション） 第3回： 介護と倫理（人権尊重からすべては始まる） 第4回： 介護における関わりの原理（介護の関係性・コミュニケーション・自己覚知） 第5回： 介護を必要とする人への理解（発達・老化・高齢者） 第6回： 介護を必要とする人への理解（認知症高齢者とその家族への支援） 第7回： 介護を必要とする人への理解（障がいを持つ人とその家族への支援） 第8回： 介護の方法（移動：ボディメカニクス・視覚障がい・肢体不自由） 第9回： 介護方法（車椅子の操作方法, 車椅子の種類、車椅子の開発例） 第10回： 介護の方法（食事：嚥下のメカニズム、誤嚥予防） 第11回： 福祉用具・機器の種類、使用法（補装具、日常生活用具、福祉用具の目的・活用） 第12回： 終末期（ターミナル）にある人の介護 第13回： 要介護者と介護活動を支える法律（介護保険法、障害者総合支援法など）と活動の場 ・ 介護保険サービス（デイサービス, デイケア, ショートステイ, グループホーム）の役割, 介護老人福祉施設, 介護老人保健施設, 介護療養型医療施設, ユニットケア） 第14回： 地域ケアの必要性			
テキスト 必要に応じて、随時プリント資料を配付します。			
参考書・参考資料等 「看護・介護のための人間工学入門」（小川鑛一共著、東京電機大学出版局） その他にも講義時適宜紹介します。			
学生に対する評価 授業時小レポート：中間課題レポート：最終レポート＝40％：30％：30％			

授業科目名： 介護等体験特論		教員の免許状取得のための 選択科目（高等学校）	単位数： 1単位	担当教員名： 広石 英記、加藤 英池子 担当形態： クラス分け・単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
教師を目指している学生が、安全かつ有意義に介護等体験を行うために必要な知識や技能の修得を図ると共に、本格的少子高齢社会を迎え、またノーマライゼーションの実現が目指される21世紀においては、様々な人々と共生していくための見識を学生が身につけることを授業のテーマとしている。具体的には、 1. 高齢者、障害者の個々のニーズに対応した介護の実際を理解する。 2. 社会福祉施設の種別や特色を理解する。 3. 特別支援教育の実際を理解し、特別支援教育の意義を理解する。 4. 高齢化社会の問題やノーマライゼーションなど今後の共生社会に必要な課題や理念を理解する。 ことを科目の到達目標とする。				
授業の概要				
多様な人々との交流や高齢者・障害者の介護を通じて、より幅広い社会的視野を持った人材育成を目指す「介護等体験」をより安全かつ充実したものにするために、本科目では、下記のような多様な学習活動を実施する。 現場で働いている介護福祉士の指導を通して、介護や福祉現場での実際を知るとともに、すでに介護等体験を行った上級生とのコミュニケーションを通じて、高齢者や障害を持っている方々にとって安全かつ、充実した体験への実践的な姿勢を培う。 また、介護等体験を実施する特別支援学校や社会福祉施設からの諸注意の指導を徹底し、安全で有意義な介護等体験へ向けた諸準備を行う。 体験後には、各自の異なる社会福祉施設での介護等体験の実態を共有し、各自の福祉観を広げると共に、介護体験を教育の場に生かすために、子どもの発達に応じたコミュニケーション法や生徒の個性・適正を生かした指導法 についてディスカッションを行い、教師として必要な幅広い社会的視野の獲得と、個性に応じた指導ができる技能の必要性を理解させる。				
授業計画				
障害の種別や加齢による障害を理解すると共に、介護や福祉に関する様々な知見を学ぶことによって、特殊支援学校および各種の社会福祉施設で行われる「介護等体験」をより充実したものにすることを目指して、以下の内容の指導を行う。 第1回（4月初旬）90分×2コマ 介護等体験の概要説明				

・介護等体験の趣旨 ・介護等体験の期間、施設について ・介護等体験に関する諸手続 ・施設別の利用者の実態 ・施設別の介護内容 第2回（5月～6月）90分×2コマ 介護等体験の事例研究 ・介護等体験に対する心構え ・介護等体験の経験者による事例紹介 ・施設別の介護等体験の諸注意（服装、挨拶など） ・介護の実際（食事、排泄、移動、入浴、衣類の着脱補助） 第3回（5月～6月）90分×2コマ 介護等体験直前の諸注意 ・施設へのアクセス確認 ・体験時間帯、服装、その他諸規定の確認 ・介護等体験日誌記載の方法 第4回（5月～12月）90分×2コマ 各自の実習先への訪問指導 2日間の介護体験実習特別支援学校のいずれか *実習施設は、東京都社会福祉協議会が選定 5日間の介護体験実習社会福祉施設（障害者福祉施設、高齢者福祉施設など） *実習施設は、東京都教育委員会が選定 第5回（12月～1月初旬）90分×2コマ 介護等体験事後指導 ・介護等体験日誌の提出 ・介護等体験による自律的学習成果の相互確認 ・ディスカッション（今後の福祉社会に私たちが出来ること） ・最終レポートの作成	
テキスト	『介護等体験マニュアルノート』（東京都社会福祉協議会）
参考書・参考資料等	参考資料などを適宜配付
学生に対する評価 討論参加が50%、体験日誌や課題レポートが50%として評価する。	

授業科目名： 道徳理論と指導法	教員の免許状取得のための 選択科目（高等学校）	単位数： 2 単位	担当教員名： 広石 英記
			担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動です。 「道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けていること」を全体目標とします。具体的には、下記の学習目標を意識して、授業に参加して下さい。 1. 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解し、説明できる。 2. 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解し、学習指導計画が作成できる。			
授業の概要			
本科目は、実践的な道徳の指導法を習得するために設置された教職課程科目です。特別な教科として道徳教育の意義や指導法について理解することが本科目の目的です。 本科目では、日常的な私たちの行動を手がかりとして、「他者と共に、よりよい生き方を探究する道徳教育」について、様々な能動的で協働的な活動（アクティブラーニング）を通して共に学んでいきます。 道徳はその自律的行使を人々の内なる声（良心）に期待せざるをえません。そのために道徳は各人によってとらえ方が異なり、社会的コンセンサスの形成が難しいと考えられがちです。教育では、このジレンマが「道徳は教えられるのか？」といった素朴な疑問として考えられます。 本講義では、この疑問を真摯に受けとめた上で、価値観の多様化が顕在化しているグローバル社会におけるこれからの道徳教育の在り方を、みなさんと共に考えていきます。			
授業計画（1 コマ 100 分）			
第1回： 道徳教育への招待（道徳教育の使命、授業の進め方）			
第2回： 道徳教育の基本的概念（1）（道徳の諸概念、本質、目標）			
第3回： 道徳教育の基本的概念（2）（道徳原理の普遍性と多様性）			
第4回： 道徳教育の思想（義務論、儒学的道徳、正義論など）			
第5回： 道徳教育の歴史（修身、戦後教育における道徳、特別な教科としての道徳など）			
第6回： 道徳教育の理論（道徳性の発達段階、知育と徳育の関係性など）			
第7回： 道徳教育の方法（1）（価値内面化・モラルディスカッションなど）			

第8回： 道德教育の方法（2）（ソーシャルスキルトレーニングなど） 第9回： 道德教育の実践（1）模擬授業A（自律、配慮、責任など） 第10回： 道德教育の実践（2）模擬授業B（信頼、感謝、連帯など） 第11回： 道德教育の実践（3）模擬授業C（生命尊重、自然愛など） 第12回： 道德教育の実践（4）模擬授業D（いじめ、情報モラルなど） 第13回： 道德教育の実践（5）模擬授業E（正義、公共性、権利と義務など） 第14回： 最終レポート作成、授業案の作成 講評（学びの振り返り）
テキスト 必要に応じて、随時プリント資料を配付します。
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編（平成29年7月、文部科学省） 教職のための教育原理 第二版（内海崎貴子 編著、八千代出版） 新・教職課程シリーズ 道德教育論（松下良平 編著、一藝社）
学生に対する評価 参加者は自ら道德に関わる課題を探究し、参加者相互の討論も行います。また、班別活動や道德の模擬授業も行います。また、最終的な学びを振り返るためのレポートも課します。このような全ての活動を総合的に評価します。平常点（コメントペーパーや発言等、50%）、最終レポート（50%）によって評価します。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 頼松 瑞生 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
1． 憲法の形態が様々であることを把握し、その違いを識別できる。			
2． 日本国憲法が規定する統治機構の仕組みを把握できる。			
3． 人権保障の理念を理解し、日本国憲法が保障する各基本的人権の違いを識別できる。			
授業の概要			
憲法は国家の基本法とされ、国家の統治機構について定めた部分と人権保障について定めた部分から成り立っています。このうち、憲法が人権保障について定めているのは、国家の究極的目的が国民の人権を護ることにあるからです。したがって、私たちが憲法を学ぶことは、国家によりよい社会の実現を求める上で重要なことといえましょう。しかし、憲法には解釈上、問題となる点が少なくなく、そのことがその理解を困難なものにしています。そこで、本講義では、こうした解釈上の問題点について検討を加え、憲法をより親しみやすい存在となるようにしていきたいと思います。			
授業計画 (1 コマ 100 分)			
第1回：憲法とは何か、憲法を学ぶ意義は何か、どのように学んだら良いかなどを説明する。			
第2回：実質的意味の憲法と形式的意味の憲法の区別を説明し、さらに、成文憲法について学ぶ。			
第3回：憲法慣習について取り上げ、その具体的例及び成文憲法に対する効力を学ぶ			
第4回：憲法判例について取り上げ、その意義及び具体的事例を学ぶ。			
第5回：人権保障について取り上げ、その意義及び特徴を学ぶ			
第6回：基本的人権の分類について取り上げ、消極的権利、積極的権利、能動的権利等の違いを理解する。			
第7回：国民主権の問題を取り上げ、直接民主制及び間接民主制について学ぶ。			
第8回：事前学習をもとに小テストを実施する。 天皇制について取り上げ、それに関連して世襲制や国事行為の問題を学ぶ。			
第9回：権力分立制について取り上げ、それに関連して議院内閣制を学ぶ。			
第10回：司法権の独立の問題を取り上げ、それに関連して裁判官の身分保障や弾劾裁判などを学ぶ。			
第11回：違憲審査制について取り上げ、その意義及び問題点を考える			
第12回：法の支配について取り上げ、それに関連して適正手続の保障の問題を学ぶ。			
第13回：平和主義について取り上げ、それに関連して自衛権の問題を考える			
第14回：学力考查及び解説			
テキスト			
特に指定しない。			

参考書・参考資料等
『有斐閣双書 憲法概観』（小嶋和司、大石眞著、有斐閣）
学生に対する評価
学力考査：平常の授業への参加の姿勢(課題等)=80％:20％

授業科目名： 健康と生活	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 知己
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 様々な健康領域に関する基礎知識と健康情報の捉え方を習得するとともに、社会的および個人的健康課題を発見し記述できる(平常課題レポート)。			
2. 各自で定めた健康課題の現状を調査・把握し、その改善策を提案するレポートを記述できる(期末レポート)			
3. 上記課題を通じて、適正な健康情報に基づき、複数の要因を包括的に検討し、合理的な判断によって健康問題を改善・解決する能力を高めることができる(ヘルスリテラシーのセルフチェックと自己分析)。			
授業の概要			
健康は生活の基盤である。”この点に対する異論は少ないでしょう。ところが、健康への配慮は“物質的・経済的豊かさ”が追求される一方で現代社会では後回しになりがちです。また個人生活においても、機械や電子機器と同様に身体や心もメンテナンスが大切なことは重々承知しているものの、行動が伴わない人は少なくありません。このように個人レベルにしても社会レベルにしても、健康に望ましい方向に様々な条件を整える必要性は自明でありながら、さて実行するとなると容易ではありません。しかし、これからの時代は、この「自明の理」に改めて目を向け、健康やこれを左右する環境を実質的に高めてゆくビジョンが、「ものづくり」をはじめとする様々な社会活動の場で求められることでしょう。			
この講義では、学生に身近な健康管理に関する知識や話題を入り口として、個人や集団の健康に影響を及ぼす諸要因の影響について学び、自己の生活習慣を評価・管理する能力(ヘルスリテラシー)を養うことを目的とします。			
授業計画 (1コマ100分)			
第1回：授業ガイダンス(ヘルスリテラシー開始時チェック、平常課題の書き方、健康情報の捉え方(ビデオ講義))			
第2回：肥満の定義と測定			
肥満の定義および肥満評価の各種方法(簡易法や実験室的方法)の長所と短所について学び、その後肥満度評価(BMIの算出と評価、皮下脂肪厚に基づく体密度・体脂肪率の推定など)の実習を行います			

第3回：肥満の予防と解消法

肥満の合併症、日本と諸外国の肥満者数の現状、単純性肥満の要因（先天的要因と後天的要因）、肥満解消法の基本に加えて低体重（やせ）の問題点に言及し、適切なウエイトコントロールの大切さについて学びます。

第4回：高齢者の体力づくり

高齢社会の現状と今後、健康問題を含めた高齢化の進展に伴う諸問題、および加齢による体力低下傾向、高齢者のトレーナビリティ、生涯にわたる体力管理の大切さについて学びます。

第5回：喫煙と健康

喫煙の有害性（能動喫煙・受動喫煙の害）日本の喫煙率（成人および未成年者）、たばこ規制に関する世界保健機関枠組条約、ニコチンの依存性、禁煙法などについて学びます。

第6回：飲酒と健康

飲酒の歴史、日本人の飲酒観、未成年者の飲酒問題、飲酒の功罪、イッキ飲みによる事故、嗜癖行動としてのアルコール依存症などについて解説し、適正飲酒について考え、学びます。

第7回：エイズの予防

エイズの歴史、エイズの自然史、感染後の経過、HIV感染者数、予防法、およびその他のSTD予防の必要性について解説し、加えて患者への差別問題や薬害についても言及します。そして、感染症の社会的影響を多面的にとらえて対処する重要性について学びます。

第8回：ヘルスリテラシー中間チェック、期末レポート記述の要点

期末レポートの作成方法とテーマの選定方法について、配布資料に基づき説明します。また、適切な健康情報源や健康情報の解釈の仕方について解説します。

第9回：ストレスへの対処①

ストレスの語源、ハンス・セリエのストレス学説、過労死、ストレッサーの種類、ストレス耐性、A型気質およびストレス状態のチェック法など、ストレスに関する基礎知識を学びます。

第10回：ストレスへの対処②

ストレス対処法の基本的な考え方について学び、日々のストレスに対する心構えや基本的対処の留意点を習得します。ストレス対処に関するプレゼンテーション(TED)を聴講します。

第11回：睡眠と健康

睡眠の定義と評価方法、睡眠の種類と機能、断眠実験、睡眠の制御機構（恒常性機構・体内時計機構）、アテネ不眠尺度、睡眠障害（特に概日リズム障害）、日本の不眠症の割合、睡眠障害対処12の指針について学び、実生活における睡眠管理能力を高めます。

第12回：身体活動と健康

身体活動不足の有害性、ベッドレスト実験、身体活動の健康効果（期待される疾病予防効果とQOL向上効果）、健康づくりのための運動指針2006などについて学び、健康保持・増進のために身体活動の役割と実生活での習慣化について考えます。

第13回：食生活と健康

栄養素の主な働きと欠乏症・過剰症、日本人の食生活における現代的課題、食生活指針、食事バランスガイドについて学び、食生活における自己管理能力を高めます。

第14回：ヘルスリテラシー終了時チェックと自己評価、レポート指導

テキスト

特になし、印刷資料配付

参考書・参考資料等

- ・「実践に生かすスポーツ教養 - スポーツのあるライフスタイルのすすめ - , 第2版」(加藤知己、内匠屋 潔、古賀初、木村憲 著、東京電機大学出版局)
- ・「健康・運動・スポーツのTopics」(齊藤恭平 編著、八千代出版)

学生に対する評価

期末レポートを70%、平常課題レポートを30%として成績評価を行います。

授業科目名： 身体運動のしくみ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 憲
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1．身体運動に係わるからだの構造と機能について理解し説明することができる。			
2．工学技術の健康やスポーツへの応用について多様な見識を述べることができる。			
授業の概要			
本授業では、解剖生理学的基礎知識を背景として身体運動を支えるからだの諸機能について概観する。それらの知識に基づき、運動活動（スポーツ活動）に伴う骨格筋や心肺機能の適応変化とトレーニング方法について紹介する。後半では、身体運動の制御に着目し、動きの創出や運動の巧みさに関係する神経系の働きについて解説する。これらの知識に基づき、運動の学習やスポーツスキルの向上に必要なトレーニングの原則について紹介する。これら身体運動に係るからだの諸機能について理解し、運動機能の回復や体力・スポーツスキル向上への工学技術の貢献ならびに応用可能性について考える。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：授業概要の説明			
身体運動とエネルギー：食べたものはどのようにエネルギーとなり身体運動を引き起こすのか			
第2回：骨格筋① 筋の分類と構造			
第3回：骨格筋② 骨格筋の構造と機能：力はどうに発揮されるのか			
第4回：筋腱複合体の構造と働き：身体の柔軟性とからだに潜むバネの存在			
第5回：骨格筋の適応：からだをデザインする骨格筋のつくりかた			
第6回：心臓の構造と機能			
第7回：血管の構造と機能			
第8回：心臓と血管の適応：運動トレーニングに伴うスポーツ選手の適応変化			
第9回：有酸素トレーニングの原則：スタミナの見極めかたと体力レベルに応じた適切なトレーニング負荷の設定			
第10回：有酸素運動と減量：減量に成功するための適切な身体運動の取り入れ方。			
第11回：身体運動と神経系：身体運動の「巧みさ」を決定するもの。			
第12回：身体運動と神経系の適応：運動トレーニングに伴うスポーツ選手の特異的神経情報処理			
第13回：スポーツスキルの考え方とトレーニングの原則			
第14回：授業全体総括、学習報告			
テキスト			
特になし、印刷資料配付			

参考書・参考資料等

「実践に生かすスポーツ教養 - スポーツのあるライフスタイルのすすめ - , 第2版」
(加藤知己、内匠屋潔、古賀初、木村憲著、東京電機大学出版局)

学生に対する評価

毎回実施する小テスト (50%) ・小レポート (50%) により、総合的に評価する。

授業科目名： ウェルネス&スポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 知己、木村 憲、古賀 初 担当形態： クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 運動習慣を形成・維持するための知識や方法を理解し実践できる。			
2. 自身にとって健康維持向上に効果的な運動強度・量について把握することできる。			
3. 運動を含む生活習慣の維持によって健康を自己管理する知識や方法を理解し実践できる。			
授業の概要			
ウェルネス&スポーツの授業は、毎回の実技および半期7回のオンデマンド型講義による演習で構成されている。その目的は、運動習慣を含む生活習慣を自己管理し健康を維持・増進できる実践力を身につけることにある。現代社会において健康を維持するための適切な生活習慣を確立することが重要である。中でも運動習慣は省力化・情報化に伴う現代社会において習慣化の難しいライフスタイルと言える。			
実技では、 <u>軽中強度のスポーツ実技を実践することによって、自身の健康維持向上に適切なスポーツ活動について確認する（実技1単位45時間）。</u> また、学生同士のディスカッションを取り入れ、意見交換の場を設けている。			
<u>オンデマンド型講義による演習では、学習管理システム（LMS）を活用し、ICT教材を用いて種々の健康問題に対する運動習慣の効果について理解を深め、自身にとって適切な運動の種類・強度・量や健康管理に必要な基礎知識について学習する（演習1単位45時間）。</u> また、 <u>毎日の生活習慣をWeb管理システムに記録することにより、生活習慣の振り返りと健康維持向上に有効な生活管理スキルを修得させる。演習で提出された記録や課題のフィードバックや質疑応答等に対しては、毎回、学習管理システムを利用し十分な指導を行う。</u>			
これらの学習を進めることによって運動を含む生活習慣の維持によって健康を自己管理する実践力を身につける。授業では、運動実践が及ぼす健康度への効果を把握するために、学期始めの体力、健康度生活習慣が学期末にどのように変化したかを測定・調査データから客観的に確認する。			
授業計画（1コマ100分）			
【実技授業】			
第1回：授業ガイダンス、講義：大学生の健康、演習：健康度生活習慣の自己診断①（事前測定）			
第2回：体力の自己診断①（事前体力測定）			
第3回：軽中強度の運動の実技（至適運動負荷の確認）			

第4回：スポーツ実技① 軽強度スポーツの実践：卓球の基礎技術 第5回：スポーツ実技② 軽強度スポーツの実践：卓球のシングルスゲーム 第6回：スポーツ実技③ 軽強度スポーツの実践：卓球のダブルスゲーム 第7回：スポーツ実技④ 中強度スポーツの実践：バドミントンの基礎技術 第8回：スポーツ実技⑤ 中強度スポーツの実践：バドミントンのシングルスゲーム 第9回：スポーツ実技⑥ 中強度スポーツの実践：バドミントンのダブルスゲーム 第10回：スポーツ実技⑦ 軽中強度チームスポーツの実践：バレーボールの基礎技術 第11回：スポーツ実技⑧ 軽中強度チームスポーツの実践：バレーボールの発展技術 第12回：スポーツ実技⑨ 軽中強度チームスポーツの実践：バレーボールのゲーム 第13回：体力の自己診断（事後測定）②、健康度生活習慣の自己診断（事後測定）② 第14回：学力考査、教場レポート作成、解説 【演習授業(学習管理システムを活用したオンデマンド型講義による演習)】 第1回：健康管理のためのICTシステムの活用方法および大学生活における健康管理 第2回：身体活動と健康および外科系障害の予防と応急処置 第3回：学習テーマの総復習「身体活動の見直しと達成目標の確認」 第4回：食生活と健康についておよび内科系障害の予防と応急処置 第5回：学習テーマの総復習「食活動の見直しと達成目標の確認」 第6回：学習テーマの総復習「睡眠の見直しと達成目標の確認」 第7回：生活習慣の総合的振り返り・目標設定・生活習慣記録
テキスト： 「実践に生かすスポーツ教養-スポーツのあるライフスタイルのすすめ-(第2版)」(加藤知己、内匠屋潔、古賀初、木村憲著、東京電機大学出版局)
参考書・参考資料等 ICTを利用したデジタル資料、動画資料等の配信
学生に対する評価 態度（スポーツ参加意欲）（20％）、学力考査（40％）、レポート課題（40％）から総合的に評価する。

授業科目名： エクササイズ&スポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 知己、古賀 初、木村 憲 担当形態： クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		

授業のテーマ及び到達目標

1. スポーツ実践を通じて体力を自己管理するための科学的知識や方法を理解し実践できる。

2. 特定のスポーツ種目の基礎技能に関する知識や練習方法を理解し実践できる。

3. スポーツの練習と試合におけるコミュニケーションの重要性を理解し実践できる。

授業の概要

エクササイズ&スポーツの授業は、毎回の実技および半期7回のオンデマンド型講義による演習で構成されている。その目的は、スポーツ実践を通じて体力維持・向上を意図した運動習慣を身につけると共に、チームスポーツを通じて協調性やコミュニケーション能力を涵養することにある。体力は免疫力やストレス耐性と関連し、活力ある社会生活を営むうえで欠かすことのできない要素である。近年、若者の体力維持向上には中強度以上の定期的なスポーツの実施が推奨されており、特にチームスポーツには体力のみならず組織で働く能力の向上が期待される。

実技では、特定のチームスポーツを実践することで、段階的に体力、スポーツスキルを高め、それらの効果を確認する。また、チームでの役割を見出し戦術や技術に関する議論の中から協調性やコミュニケーションの重要性を理解し主体的に関わる態度を育む（実技1単位45時間）。学生同士のディスカッションを取り入れ、意見交換の場も設けている。

オンデマンド型講義による演習では、学習管理システム（LMS）を活用し、ICT教材を用いて安全かつ効率的に体力を向上させるための科学的根拠に基づくトレーニング方法について学習し、自身に適切な運動プログラム作成と体力づくりを習慣化できる実践力を身につける（演習1単位45時間）。また、毎日の運動習慣をWeb管理システムに記録することにより、運動実施の振り返りと健康維持向上に有効な生活管理スキルを修得させる。演習で提出された記録や課題のフィードバックや質疑応答等に対しては、毎回、学習管理システムを利用し十分な指導を行う。

授業では、運動実践が及ぼす体力と健康度への効果を把握するために、学期始めの体力、健康度が学期末にどのように変化したかを測定・調査データから客観的に確認する。

授業計画（1コマ100分）

【実技授業】

第1回：授業ガイダンス、講義：運動スポーツの意義、演習：健康度の自己診断①（事前測定）

第2回：体力の自己診断①（事前体力測定）

第3回：運動強度の自己診断（心拍計と用いた運動負荷テスト、至適運動負荷の確認）、クラス分け

※第4回～12回のスポーツ実技はテニス/フットサル/バスケットボール他から3種目（クラス）が設定され各クラスに分かれて1種目を実施

第4回：スポーツ実技① 体力増強期（軽強度）

第5回：スポーツ実技② 体力増強期（中強度）

第6回：スポーツ実技③ 体力増強期（高強度）

第7回：スポーツ実技④ スポーツスキル獲得期（基礎）

第8回：スポーツ実技⑤ スポーツスキル獲得期（発展）

第9回：スポーツ実技⑥ スポーツスキル獲得期（応用）

第10回：スポーツ実技⑦ 試合期（チーム対抗戦1）

第11回：スポーツ実技⑧ 試合期（チーム対抗戦2）

第12回：スポーツ実技⑨ 試合期（チーム対抗戦3）

第13回：体力の自己診断②（事後測定）、健康度の自己診断②（事後測定）

第14回：学力考査、教場レポート作成、解説

【演習授業(学習管理システムを活用したオンデマンド型講義による演習)】

第1回：体力管理のためのICTシステムの活用方法および運動習慣と体力づくり

第2回：体力テストの意義

第3回：運動強度の客観的測定法および軽強度有酸素運動の効果

第4回：軽強度運動プログラムの作成・実践

第5回：学習テーマの総復習、後期前半の振り返りおよび中・高強度有酸素運動の効果

第6回：筋力トレーニングの理論および筋力アップ運動プログラムの作成と実践

第7回：体力と生活習慣の総合的振り返り・目標設定・生活習慣記録

テキスト：「実践に生かすスポーツ教養-スポーツのあるライフスタイルのすすめ-(第2版)」

(加藤知己、内匠屋潔、古賀初、木村憲著、東京電機大学出版局)

参考書・参考資料等

ICTを利用したデジタル資料、動画資料等の配信

学生に対する評価

態度（スポーツ参加意欲）（20%）、学力考査（40%）、レポート課題（40%）から総合的に評価する。

授業科目名： コミュニケーションス ポーツ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 木村 憲
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標 1. 様々な形のスポーツ参画のあり方を理解し実践できる。 2. 多様な仲間との交流の中から、スポーツを楽しむための最適解を見出すことができる。 3. 様々なスポーツ種目に価値と効果を見出し、スポーツのあるライフスタイルを習慣化できる。				
授業の概要 スポーツ活動は体力や健康度の維持改善だけではなく、人間形成や人間関係そして社会・地域との繋がりを促す効果がある。本科目では、「する・みる・ささえる」様々な形のスポーツ参画のあり方を理解し、多様な学生間の交流を通じてスポーツを楽しむための最適解を自ら探索する。そのための学習教材としてチームスポーツに取り組み、スポーツを実践、応援、運営する活動を通じて多様なコミュニケーションの機会を経験しながらグループ学習を進める。様々なスポーツ参画のあり方を体験的に学習することによって主体性・実行力、コミュニケーションスキルや計画力などの社会人として必要な基礎力を育む。本科目を通して、健康で幸福な社会生活を営むためのライフスキルとしてスポーツのあるライフスタイルを習慣化できる態度を身につける。				
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス、講義：スポーツと社会人基礎力 第2回：体力の自己診断①（事前測定） 第3回：卓球 様々なスポーツを多様な仲間と実践する中で楽しみを見出し、スポーツ活動の心身に及ぼす効果や意義を体験的に学習する。（卓球） 第4回：バドミントン 様々なスポーツを多様な仲間と実践する中で楽しみを見出し、スポーツ活動の心身に及ぼす効果や意義を体験的に学習する。 第5回：テニス 様々なスポーツを多様な仲間と実践する中で楽しみを見出し、スポーツ活動の心身に及ぼす効果や意義を体験的に学習する。 第6回：フットサル スポーツを実践するだけでなく、相互に観戦し声援を送ることの効果や意義について体験的に学習する。 第7回：バスケットボール スポーツを実践するだけでなく、相互に観戦し声援を送ることの効果や意義について体験的に学習する。 第8回：卓球 スポーツ活動を仲間と作り上げる体験を通じて、スポーツを楽しむための「ささえる」スポーツの意義について体験的に学習する。 第9回：バドミントン スポーツ活動を仲間と作り上げる体験を通じて、スポーツを楽しむための「ささえる」スポーツの意義について体験的に学習する。 第10回：テニス スポーツ活動を仲間と作り上げる体験を通じて、スポーツを楽しむための「ささえる」スポーツの意義について体験的に学習する。 第11回：フットサル スポーツ活動を仲間と作り上げる体験を通じて、スポーツを楽しむための「ささえる」スポーツの意義について体験的に学習する。 第12回：バスケットボール スポーツ活動を仲間と作り上げる体験を通じて、スポーツを楽しむための「ささえる」スポーツ				

の意義について体験的に学習する。 第13回：体力の自己診断②（事後測定） 第14回：学力考査、教場レポート作成、解説
テキスト： 「実践に生かすスポーツ教養-スポーツのあるライフスタイルのすすめ-(第2版)」 (加藤知己、内匠屋潔、古賀初、木村憲著、東京電機大学出版局)
参考書・参考資料等 ICTを利用したデジタル資料の配信
学生に対する評価 態度（スポーツ参加意欲）（20%）、学力考査（40%）、レポート課題（40%）から総合的に評価する。

授業科目名： アウトドアスポーツA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 加藤 知己、木村 憲、古賀 初、 石原 美彦 担当形態： 複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1. 学生（班員）同士協力し合って安全に富士登山やキャンプ活動ができる。 2. 富士山やキャンプ場におけるマナーを守り、行動できる。			
授業の概要 アウトドアスポーツAでは、富士登山とキャンプの基本技術・知識やマナーを体験的に習得することが主活動となります。この実習活動を通じて、アウトドアスポーツの科目目的である、①自然の中で心身をリフレッシュし健康・体力を増進すること、②学部・学科を超えた学生間交流を促しコミュニケーション能力を養うこと、③自然との触れ合いから自然に対する畏敬の念や環境保全意識を培うことを狙っています。勉学や仕事で多忙な日々を過ごしていると、これらの側面はともすると忘れがちになるようです。一時日常生活から離れ、スポーツを通じて自然を体感することによって、さらなる日々の活力や英気を養ってほしいと考えています。 特に富士登山キャンプでは、参加者同士の協調性を養ってほしいと思います。キャンプ活動にしても富士登山にしてもここではグループ活動です。実習を満足して終えるためには、個々人の心身の準備・装備に加え、出会った仲間とのチームワークを築いてゆくことが鍵となります。この点を意識して実習活動に参加すれば、本科目は社会性を高める良い機会となるでしょう。			
授業計画 (1) 期間：3泊4日（8月初旬） (2) 場所：山梨県足和田村西湖湖畔紅葉台キャンプ場 (3) 実施スケジュール（予定） 第1日目【学習時間6時間（13:30-18:00, 19:00-20:30）】 13:00 キャンプ場集合 13:30 開講式（体育） 13:45 講義「チームワークの要点」，役割分担（体育） 18:00 講義、役割分担作業終了、夕食 19:00 ミーティング（役割分担の確認等）（体育） 20:30 ミーティング（役割分担の確認等）終了 22:00 就寝（バンガロー泊）			

第2日目【学習時間 7 時間(6:30-8:00, 10:00-12:00, 15:00-16:30, 17:30-19:30)】

- 06:00 起床
- 06:30 朝礼、体操、散歩（体育）
- 08:00 体操、散歩終了、朝食準備、片付け
- 10:00 講義「富士登山の方法・留意点」、登山計画の作成・発表（体育）
- 12:00 講義、登山計画の作成・発表終了、昼食準備、片付け
- 15:00 富士登山出発式（体育）
- 15:10 富士登山出発（体育）
- 16:30 五合目到着
- 17:30 五合目出発（体育）
- 19:30 七合目トモエ館到着・本日の活動終了

第3日目【学習時間 12 時間（0:00-3:30, 6:00-8:00, 10:30-12:30, 13:30-18:00）】

- 00:00 七合目トモエ館出発（体育）
- 01:00 八合目到着（体育）
- 03:30 登頂到着（体育）
- 06:00 下山開始（体育）
- 08:00 下山完了五合目
- 10:30 五合目集合・出発（体育）
- 12:00 富士登山終了式（体育）
- 12:30 午前の部終了、昼食、昼食後休憩
- 13:30 午後の部再開、チームワークの自己評価（班別）（体育）
- 18:00 本日の活動終了・夕食
- 22:00 就寝(バンガロー泊)

第4日目【学習時間 5 時間(6:30-8:00, 9:00-12:30)】

- 06:00 起床
- 06:30 朝礼，閉講式，体操，散歩（体育）
- 08:00 体操、散歩終了、朝食準備
- 09:00 キャンプサイトの掃除、片づけ（体育）
- 11:00 資材返却（体育）
- 12:30 解散（体育）

学習時間：合計45時間（授業30時間+授業外学習15時間）

*授業外学習（事前事後学習）は事前に配布した実習ノートとレポートの課題に基づき学習を進める

テキスト 履修ガイドブックに加えて、適宜、印刷資料（①「富士登山の留意点」、②「チームワークの要点」、③「登山計画」など）を配付。
参考書・参考資料等 「実践に生かすスポーツ教養(第2版)」（加藤知己編著、東京電機大学出版局）
学生に対する評価 総合評点（100％）＝個人技能点（40％）＋班別活動評点（40％）＋レポート点（20％） ※個人技能点と班別活動点の内訳は、富士登山とキャンプ活動が各20点の配点となる。 ※レポートのテーマについては実習中に周知する。

授業科目名： アウトドアスポーツB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 加藤 知己、木村 憲、 古賀 初、石原 美彦 担当形態： 複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1. ゴルフの基本技術や基本的ルールを理解し、安全に練習やラウンドすることができる。 2. ゴルフプレイ中やゴルフ場におけるマナーを理解し、行動できる。			
授業の概要 アウトドアスポーツBでは、ゴルフの基本技術・知識やマナーを体験的に習得することが主な活動となります。この実習活動を通じて、アウトドアスポーツの授業目的である、①自然の中で心身をリフレッシュし健康・体力を増進すること、②学部・学科・学年を超えた学生間交流を促しコミュニケーション能力を養うこと、③自然との触れ合いから自然に対する畏敬の念や環境保全意識を培うことを狙っています。勉学や仕事で多忙な日々を過ごしていると、これらの側面はともすると忘れがちになるようです。一時日常生活から離れ、スポーツを通じて自然を体感することによって、さらなる日々の活力や英気を養い、豊かな人間性を培ってほしいと考えています。 特に、ゴルフでは、審判のいない唯一の球技と言われ、ルールに基づいて自分のプレーを自ら適正に判定する必要があります。これに加えて、同伴競技者への配慮やコース・自然の保全といったマナーに基づく行動も必須の要素となります。このゴルフ実習を通じて社会人の基礎力である自律性や自立心、マナーを養ってほしいと考えています。			
授業計画 (1) 期間：3泊4日（8月下旬～9月初旬） (2) 場所：船橋カントリー倶楽部、リトルグリーンヴァレー船橋 (3) 実施スケジュール（予定）： 1日目【体育実技学習時間 6 時間】（12:30～18:00） 12:30 ホテル「マークワンCNT」会議室において出席確認 12:40 開講式 12:50 講義「ゴルフの基本ルール・マナー」に関する講義 14:30 ゴルフ練習場（リトルグリーンヴァレー船橋）へバス移動 15:00 ショット練習（アイアン、ドライバー）、ショット練習に並行して 16:30頃からバンカーショットのグループ別練習			

18:00 ホテルへバス移動（チェックイン）

19:00 各自夕食

20:00 パット練習

22:00 就寝

第2・3日目【体育実技学習時間20時間】（8:45～18:00）（20:00～20:30）

07:00 起床

07:30 朝食

08:45 ゴルフ練習場（リトルグリーンヴァレー船橋）へ移動

09:00 ショット練習（ショットアイアン、アプローチ）

10:00 ショートコースラウンド（9ホール）

12:00 昼食

13:00 ショット練習（アプローチ・ドライバー）

14:00 本コース（船橋カントリー倶楽部）へ移動

14:30 コンペラウンド（9ホール）

18:00 ホテルへ移動

19:00 各自夕食

20:00～20:30 パット練習（第2日のみ、第3日目はルールマナーの学習）

22:00 就寝

第4日目【体育実技学習時間4時間】（9:00～13:00）

07:00 起床

07:30 朝食

08:30 チェックアウト

09:00 筆記試験

11:00 表彰式

11:30 閉講式

13:00 解散

体育実技学習時間：合計45時間（授業30時間+授業外学習15時間）

*授業外学習（事前事後学習）は事前に配布した実習ノートとレポートの課題に基づき学習を進める。

テキスト

適宜、印刷資料（①履修ガイドブック、②熱中症予防、③落雷への対応）を配付

参考書・参考資料等

「実践に生かすスポーツ教養(第2版)」(加藤知己編著、東京電機大学出版局)

学生に対する評価

総合評点 (100%)

=参加態度 (30%=練習態度(20%)+合宿生活態度(10%)) +コンペスコア (50%) +筆記試験(20%)

授業科目名： アウトドアスポーツC	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 加藤 知己、木村 憲、 古賀 初、石原 美彦
			担当形態： 複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. スキーの基本技術や滑走技術の基礎理論を理解し、安全に学び、自主的に合理的な練習をすることができる。			
2. スキー場におけるルールやマナーを理解し、行動できる。			
授業の概要			
アウトドアスポーツCでは、スキーの基本技術・知識やマナーを体験的に習得することが主な活動となります。この実習活動を通じて、アウトドアスポーツの授業目的である、①自然の中で心身をリフレッシュし健康・体力を増進すること、②学部・学科・学年を超えた学生間交流を促しコミュニケーション能力を養うこと、③自然との触れ合いから自然に対する畏敬の念や環境保全意識を培うことを狙っています。勉学や仕事で多忙な日々を過ごしていると、これらの側面はともすると忘れがちになるようです。一時日常生活から離れ、スポーツを通じて自然を体感することによって、さらなる日々の活力や英気を養い、豊かな人間性を培ってほしいと考えています。			
特にスキー実習では、事故防止の観点から、技能の向上に加えて安全面の知識・態度・行動を体得してほしいと考えています。スキーやスノーボードは冬のレジャースポーツとして定着していますが、安全の配慮を怠ると大事故を引き起こしかねません。実習を通じて、冬山の自然や滑る楽しさを満喫するためには、安全面の知識と行動が必要なことを体験的に理解して欲しいと思います。			
授業計画			
(1) 期間： 3泊4日（2月中旬）			
(2) 場所： 蔵王温泉スキー場			
(3) 実施スケジュール（予定）			
第1日目【体育実技学習時間6時間】（13:45～21:00）			
13:00 ホテル「樹林」ロビー集合			
13:45 グレンデにて開講式			
14:00 班分け			
14:30 班ごとに講習開始			
16:30 講習終了			

18:00 夕食

19:00 ナイトスキー

21:00 ナイトスキー終了

22:00 就寝

第2・3日目【体育実技学習時間20時間】(9:00～21:00)

07:00 起床

07:30 朝食

09:00 講習開始

11:30 講習終了

12:00 昼食

14:00 講習開始

16:30 講習終了

18:00 夕食

19:00 ナイトスキー

21:00 ナイトスキー終了

22:00 就寝

第4日目【体育実技学習時間4時間】(8:30～12:30)

07:00 起床

07:30 朝食

08:30 講習開始

12:00 講習終了

12:10 閉講式

12:30 昼食

13:00 解散

体育実技学習時間：合計45時間（授業30時間+授業外学習15時間）

＊授業外学習（事前事後学習）は事前に配付した実習ノートとレポートの課題に基づき学習を進める。

テキスト

①履修ガイドブック（スキー技術の基礎知識、安全なスキーの留意点、緊急時の対応法等含）

②実習ノート等の印刷教材配付

参考書・参考資料等

「実践に生かすスポーツ教養(第2版)」（加藤知己編著、東京電機大学出版局）

学生に対する評価

総合評点（100%）＝

合宿生活態度（20%）＋受講態度（20%）＋技能（40%）＋実習ノート（20%）

授業科目名： 口語英語Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宍戸 真・磯 達夫・Paul Bela Nadasdy・ Hoff Edmund ・ Garcia Travis Daniel
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
英語の4技能（特に聞くこと、話すこと）の初歩的な能力を向上させることを目標とする。			
授業の概要			
This course is designed to help students specifically for developing conversational skills based on what they have learned in junior high school and high school. There will be extensive speaking practice in pairs and groups and many listening exercises in order to be able to participate in short conversations on personal and familiar topics confidently. 中学・高校で学んだことを基礎として、身近な話題について自信を持って短い会話ができるようになることを目標に、様々なスピーキング・リスニング活動を行う。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：Course guidance. （オリエンテーション）			
第2回：Unit 1: Please call me Beth. （自己紹介）			
第3回：Unit 2: What do you do? （職業）			
第4回：Unit 3: How much is it? （買い物）			
第5回：Unit 4: I really like hip-hop. （興味・嗜好）			
第6回：Speaking evaluation practice & TOEIC Bridge practice and explanation. （口頭試問の練習・TOEIC Bridgeテスト演習と解説）			
第7回：Speaking evaluation & Review of lessons. （口頭試問・既習事項のまとめ）			
第8回：Unit 5: I come from a big family. （家族）			
第9回：Unit 6: How often do you exercise? （趣味）			
第10回：Unit 7: We had a great time. （思い出）			
第11回：TOEIC Bridge practice and explanation. （TOEIC Bridge演習・解説）			
第12回：Unit 8: What's your neighborhood like? （居住地）			
第13回：Speaking evaluation practice & Listening practice and explanation.			

(口頭試問練習・リスニング演習・解説) 第14回: Speaking evaluation & Listening practice and explanation. (口頭試問・リスニング演習・解説)
テキスト 「Interchange, 4th Edition, Book 1」 (Jack C. Richards, Cambridge UP)
参考書・参考資料等 『総合英語 Forest』(石黒昭博著、桐原書店) etc. for Essential Grammar Test
学生に対する評価 1) 教員の持ち点を80%、統一文法試験を10%、TOEIC Bridgeの換算点を10%とし、合計で60%以上取得した場合に単位修得となる。 2) 教員の持ち点の内訳は、小テスト40%、口頭試問40%、宿題20%とする。 3) TOEIC Bridgeの換算点は以下の通り。 81点以上 : 10%、71点以上 : 9%、61点以上 : 8%、56点以上 : 7%、51点以上 : 6% 46点以上 : 5%、41点以上 : 4%、36点以上 : 3%、36点未満 : 2%、未受験 : 0%

授業科目名： 口語英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宍戸真・磯達夫・ Paul Bela Nadasdy・ Hoff Edmund ・ Garcia Travis Daniel
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
英語の4技能（特に聞くこと、話すこと）の基本的な能力を向上させることを目標とする。			
授業の概要			
This course is designed to help students specifically for developing conversational skills based on what you have learned in junior high school and high school. There will be extensive speaking practice in pairs and groups and many listening exercises so they will be able to participate in conversations on various topics confidently.			
さまざまな話題について自信を持って会話ができるようになるために、さまざまなでスピーキング・リスニング活動を行う。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回： Course guidance. （オリエンテーション）			
第2回： Unit 9: What does she look like?（人物・事物の描写）			
第3回： Unit 10: Have you ever ridden a camel?（過去の経験）			
第4回： Unit 11: It’ s a very exciting place! （行ってみたい場所）			
第5回： Unit 12: It really works!（アドバイス）			
第6回： Speaking evaluation practice & TOEIC practice and explanation. （口頭試問練習・TOEIC演習・解説）			
第7回： Speaking evaluation & Review of lessons.（口頭試問・既習事項のまとめ）			
第8回： Essential Grammar Test & TOEIC practice and explanation.（統一文法試験・TOEIC演習・解説）			
第9回： Unit 13: May I take your order?（レストランで）			
第10回： Unit 14: The biggest and the best.（事物の描写-最上級）			
第11回： Unit 15: I’ m going to see a soccer match.（スポーツ）			
第12回： Unit 16: A challenge for the better!（挑戦）			
第13回： Speaking evaluation practice & Listening practice and explanation.			

(口頭試問練習・リスニング演習・解説)
第14回: Speaking evaluation & Review of lessons. (口頭試問・既習事項のまとめ)
テキスト
Interchange, 4th Edition, Book 1 (Jack C. Richards, Cambridge UP)
参考書・参考資料等
『総合英語 Forest』(石黒昭博、桐原書店) etc. for Essential Grammar Test
学生に対する評価
学生に対する評価 1) 教員の持ち点を80%、統一文法試験を10%、TOEICの換算点を10%とし、合計で60%以上取得した場合に単位修得となる。 2) 教員の持ち点の内訳は、小テスト40%、口頭試問40%、宿題20%とする。 3) TOEICの換算点は以下の通り。 470点以上 : 10%、430点以上 : 9%、390点以上 : 8%、350点以上 : 7%、320点以上 : 6% 290点以上 : 5%、260点以上 : 4%、230点以上 : 3%、230点未満 : 2%、未受験 : 0%

授業科目名： 総合英語Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 相澤 一美・宍戸 真・磯達夫 ・谷口 真理・櫻井 拓也 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語の４技能の発展的な能力を向上させることを目標とする。			
授業の概要 「総合英語Ⅰ・Ⅱ」で身につけた英語力を伸ばし、4技能全般の向上を主眼とする。大学教養レベルのやや難易度の高い英文の内容を正確に読み取り、異文化社会を広く理解し、平易な英語で、自文化などについて世界に向けて自己表現・発信をするための能力を涵養する。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス、文法基礎問題演習、解説 第2回：Unit1 A Burger for a Fine Dining Experience（語彙・リーディング） 第3回：Unit1 A Burger for a Fine Dining Experience（ライティング・リスニング・スピーキング） 第4回：Unit2 Hold Me?（語彙・リーディング） 第5回：Unit2 Hold Me?（ライティング・リスニング・スピーキング） 第6回：Unit3 Spies are Everywhere（語彙・リーディング） 第7回：Unit3 Spies are Everywhere（ライティング・リスニング・スピーキング） 第8回：Unit4 Making Peace Through Music（語彙・リーディング） 第9回：Unit4 Making Peace Through Music（ライティング・リスニング・スピーキング） 第10回：Unit5 Glaciers Come, Glaciers Go（語彙・リーディング） 第11回：Unit5 Glaciers Come, Glaciers Go（ライティング・リスニング・スピーキング） 第12回：科学英語の読解問題演習、解説 第13回：科学英語の速読演習、解説 第14回：学力考查、解説			
テキスト 「VOA News Clip Collection」（安浪誠佑著、成美堂）			
参考書・参考資料等 TOEIC Test 新公式問題集Vol.7（一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会）			

学生に対する評価

1. 評価は、担当教員裁量分90%、TOEIC10%の割合で算出した点を基礎点とし、60%以上取得した者に単位を与える。
2. 教員裁量分は、小テスト類20%、学力考査80%とする。
3. TOEIC換算点は470～;10%、430～;9%、390～;8%、350～;7%、320～;6%、290～;5%、260～;4%、230～;3%、230未満2%、未受験は0%とする。

授業科目名： 総合英語Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 相澤 一美・宍戸 真・磯 達夫 ・谷口真理・櫻井拓也
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語の４技能の発展的な能力を身につけることを目標とする。			
授業の概要 「総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で身につけた英語力を更に伸ばし、４技能全般の向上を図ることを主眼とする。大学教養レベルの難易度の高い英文の内容を正確に読み取り、異文化社会を広く理解し、様々なメディアを活用して英語で自己表現・発信をするための能力を涵養する。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス、文法基礎問題演習、解説 第2回：Unit6 Picking Up Language in the Womb（語彙・リーディング） 第3回：Unit6 Picking Up Language in the Womb（ライティング・リスニング・スピーキング） 第4回：Unit7 The End of Space Travel（語彙・リーディング） 第5回：Unit7 The End of Space Travel（ライティング・リスニング・スピーキング） 第6回：Unit8 A Talent Blossoms（語彙・リーディング） 第7回：Unit8 A Talent Blossoms（ライティング・リスニング・スピーキング） 第8回：Unit9 Robots for Everyday Use（語彙・リーディング） 第9回：Unit9 Robots for Everyday Use（ライティング・リスニング・スピーキング） 第10回：Unit10 Video Games as a Career（語彙・リーディング） 第11回：Unit10 Video Games as a Career（ライティング・リスニング・スピーキング） 第12回：英語文法問題演習、解説 第13回：英語長文問題演習、解説 第14回：学力考查、解説			
テキスト 「VOA News Clip Collection」（安浪誠佑著、成美堂）			
参考書・参考資料等 TOEIC Test 新公式問題集Vol.7（一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会）			

学生に対する評価

1. 評価は、担当教員裁量分90%、TOEIC10%の割合で算出した点を基礎点とし、60%以上取得した者に単位を与える。
2. 教員裁量分は、小テスト類20%、学力考査80%とする。
3. TOEIC換算点は470～;10%、430～;9%、390～;8%、350～;7%、320～;6%、290～;5%、260～;4%、230～;3%、230未満2%、未受験は0%とする。

授業科目名： 国内英語短期研修	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： Hoff Edmund ・ Serag Adam Christopher
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語の基本的な文法・語彙・語法を身に付けることに加えて、4技能の能力の向上を図ることを主眼とする。身の廻り・日常生活に関わる事柄の最低限のことは、英語で読んだり書いたり聴いて理解したり話したりするようになることを目標とする。			
授業の概要 「海外英語短期研修」と同じ位置付けで、1週間にわたり、朝から夕方まで英語漬けの生活を送る。14回の授業を、原則として千住キャンパスで行う。			
授業計画（1コマ100分） 事前オリエンテーション、数時間分の課題、月曜日の3時限目から金曜日の2時限目まで14回分の授業があり、英語圏の国々の歴史、文化、習慣等について英語で学習する。さらに各種英語を使った活動を通じて英語コミュニケーション能力を高める 第1回：ガイダンス、スタディスキル 第2回： 10 Things I Wish I Knew Before Studying Abroad （海外留学前に知っておきたい10項目） 第3回： Should I Study Abroad in the Fall or Spring? （海外留学をするのは、秋？ それとも春？） 第4回： Are Homestays Safe Enough to Trust... Really? （ホームステイって心配？） 第5回： How to Plan a Trip to Anywhere in the World in 60 Minutes （ 60分で世界旅行に出掛けよう） 第6回： Can You Study Abroad Senior Year of College? （海外留学するのは、上級年次で？） 第7回： How to Prepare for the TOEFL （ TOEFL に関する予備知識と準備） 第8回： Preparation for TOEFL Listening			

(TOEFL のListening) 第9回：Preparation for TOEFL Reading (TOEFL のReading) 第10回：Looking into Admission Policy (海外の大学への入学方法) 第11回：The Full Scoop on Study Abroad Housing Options (留学地での住まい) 第12回：Study Abroad is an Investment Not a Vacation (海外留学の意義) 第13回：The Best Study Abroad Destinations for 13 Popular Majors (海外留学で学ぶ お薦め分野) 第14回：学力考査 及び解答解説
テキスト 特に指定教科書を定めない
参考書・参考資料等 『 TOEFL iBTテスト公式テキスト』(ETS監修、Educational Testing Service、McGraw-Hill出版)
学生に対する評価 1) 事前学習における課題の理解度 10%, 2) 学力考査の結果 50%, 及び 3) 英語エッセイ40%

授業科目名： 海外英語短期研修	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 相澤 一美
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 海外での英語研修を通じ、日常生活の様々な場面に応用できる生きた英語を体得し運用できるようにする。 2. 研修先における文化体験等を通じ、グローバル社会における異文化に対する理解を深める。			
授業の概要			
この授業では、学生が海外での英語研修に参加し、英語だけの環境に身を置くことによって、自らの英語コミュニケーション能力を向上させることを主な目的とする。授業は、海外のネイティブ教員による集中講座であり、学生の主体的参加を求める形式で進められるため、学んだ英語は、日常生活の様々な場面で活用が可能になることが期待される。また、研修先の住民と会話をするのに有用な、研修先の国や地域の文化についても学ぶ。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：オリエンテーション 英語研修全般に関する教員等からのガイダンス等			
第2回：Reading and Vocabulary① ボキャブラリーテストと復習			
第3回：Reading and Vocabulary② ボキャブラリーを増やすための練習			
第4回：Reading and Vocabulary③ 英語の文法構造について学ぶ			
第5回：Reading and Vocabulary④ 速読のための英文読解について学ぶ			
第6回：Reading and Vocabulary⑤ 研修先の国の文化に関する英文を読む			
第7回：Reading and Vocabulary⑥ 研修先の地域の文化に関する英文を読む			
第8回：Writing and Presentation① ライティング能力のチェックと英文法の復習			
第9回：Writing and Presentation② 英語で短い文章を書く			
第10回：Writing and Presentation③ 英語プレゼンテーションの基礎			
第11回：Writing and Presentation④ 英語プレゼンテーションのための題材やトピックについて			
第12回：Writing and Presentation⑤ Final Presentationに向けた中間発表			
第13回：Presentation Practice Final Presentation に向けた内容確認、発表の練習			
第14回：Final Presentation 本授業で学んだ英語を活用し、プレゼンテーションを行う。			
テキスト			
プリントを配付する。			
参考書・参考資料等			
プリントを配付する。			
学生に対する評価			
研修先の大学における所定の採点基準に従った評価に基づき、評価する。			

授業科目名： 情報リテラシー（数理 ・データサイエンス入 門）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土肥紳一、川勝真喜、吉本貫太 郎、阿部清彦、長谷川誠、宮川 治、佐藤修一、齊藤泰一、小野 目如快、齊藤剛、中川路のぞみ 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	情報機器の操作		
授業テーマ及び到達目標			
(1) 本科目で取り扱われる理工系の数理・データサイエンス入門およびコンピュータリテラシーの基礎知識を十分理解し、説明できる. (2) 本科目の情報リテラシーの学習を通じて、技術者として必要な新しい科学技術の獲得に努めることができる. (3) 授業の前半は、各自の情報端末を活用できるようにセットアップを行い、インターネットを活用した情報収集ができる. (4) 表計算ソフトウェアの活用によってレポート作成に必要な技能を身に付けることができる. (5) コンピュータグラフィックスを体験し、仮想物体をコンピュータの中に作成できる. (6) 体験を通じて学習した内容を総合的に活用することによって、プレゼンテーションのコンテンツを作成できる.			
授業の概要			
情報リテラシー（数理・データサイエンス入門）は、本学学生に求められる数理・データサイエンスに関する基礎的な素養を涵養するとともに、情報通信技術(ICT)の有用性や面白さに触れることで、コンピュータやネットワークの専門的な科学技術教育への学習動機を高めることを目的として設置されています. インターネットとコンピュータの著しい進歩により、映像や音楽もインターネットを使って配信される時代になりました. 情報端末はタブレット型のものが主流になり、学問の分野を問わずこれらの活用能力が必要とされています. この授業は、コンピュータ（情報端末）とインターネットを活用しながら数理・データサイエンスを学習します. さらに、「情報倫理デジタルビデオ小品集」「INFOS S情報倫理」「りんりん姫の情報セキュリティ教室」等を取り入れながら、情報倫理について学習します. 予備知識は特に必要ありませんが、情報リテラシーの活用方法を習熟するためには、興味を持ちながら積極的に活用する努力が必要です.			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：ガイダンス、社会で起きている変化			
数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義について理解します.			
データ・AI利活用の実例について知るとともに、その技術の概要を知ります.			
第2回：データ・AIを扱う上で留意する点			

パスワードなどの管理、情報倫理について学びます。

ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則などについて学びます。

第3回：データの収集の方法

データとは何かについて学びます。

オープンデータの利用法について学びます。

第4回：データを読む

データの種類、分布、統計情報について学びます

第5回：表計算の使い方(基本操作)

表計算の基本的な使い方について学び、和や平均などの計算方法を学びます。

数式の絶対参照と相対参照を学びます。

第6回：表計算の使い方(グラフ作成)

オープンデータを用いて棒グラフや折線グラフなどの作成方法について学びます。

グラフによるデータの比較方法を学びます。

第7回：表計算の使い方(データベース)

データベース（並び替え・抽出・集計），シート操作，シート間集計について学びます。

グラフによるデータの比較方法を学びます。

第8回：表計算の使い方(関数)

大量のデータを利用するために必要な関数について学びます。

第9回：表計算の使い方(データ集計)

大量のデータを集計する方法について学びます。

第10回：3D CG

3D CGのモデリング、レンダリングを学ぶ。モデリングに必要なデータ構造を学び、プログラミングを活用したレンダリングを行います。

第11回：情報発信

webサイトを作成し、情報発信について学ぶ。なおwebサーバは総合メディアセンターの学内限定のwebサーバを利用する。

第12回：数式処理

数式そのものを扱い、2次元や3次元のグラフィックスや、アニメーションを使って可視化を学びます。

第13回：大規模データの集計・加工

Processingを使って、プログラミングの入門について学習します。後続の科目である「コンピュータプログラミングⅠ」への導入に繋がります。例題を通じて大規模データの集計・加工を体験します。

第14回：学力考査：webページコンテスト

webページコンテストを実施します。

INFOSS情報倫理またはりんりん姫の情報セキュリティ教室等を使い、情報倫理について学びます。

テキスト

プリント（Web上に公開します）

参考書・参考資料等

特にありません。

学生に対する評価

授業時の成果物（70%），最終課題又は学力考査（30%）により評価します。

授業科目名： コンピュータプログラミングⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土肥紳一、川勝真喜、吉本貫太郎、阿部清彦、長谷川誠、宮川治、佐藤修一、齊藤泰一、小野目如快、若井英夫 担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	
施行規則に定める 科目区分又は事項等		情報機器の操作	
授業のテーマ及び到達目標 1. 本科目で取り扱われる理工系のプログラミングの基礎知識を十分理解し、説明できる。 2. 本科目のプログラミングの学習を通じて、技術者として必要な新しい科学技術の獲得に努めることができる。 3. C言語を例に様々なプログラム言語に共通する考え方（変数、式、条件分岐、繰り返し、2重繰り返し、配列、関数）を理解し、説明できる。			
授業の概要 コンピュータプログラミングⅠは、本学学生に求められる手続き型プログラミングの基礎的な素養を涵養するとともに、実機を通じてプログラミングの有用性や面白さに触れることで、これからの専門的な科学技術教育への学習動機を高めることを目的として設置されています。C言語を例に構造化プログラミングを習得することを目的とした講義と演習を実施します。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス、1 章 学習環境の準備　ープログラムの入力・コンパイル・実行、文字列の表示等 第2回：2 章 日常生活にある値　ー太陽の光が地球に届くまでの時間の計算、地球から送った指令がはやぶさ2に届くまでの時間の計算、キーボードからの入力等 第3回：2 章 日常生活にある値　ー不快指数の計算等 第4回：3 章 不思議な数　ー等差数列、等比数列、配列と繰り返しの利用　ー小テスト 第5回：3 章 不思議な数　ー初項、公比、項数の入力、フィボナッチ数列、元に戻る不思議な数。 4 章 問題を解く　ー鶴亀算、i f 文 第6回：4 章 問題を解く　ークラーメルの公式を使った鶴亀算、売り上げ最大化 第7回：5 章 デコレーション　ー文字列の入力、文字数の取得、三角関数の表示、文字の表示 第8回：5 章 デコレーション　ーチェッカー模様の表示、絵文字Xの表示　ー小テスト 第9回：6 章 便利なツールの作成　ー関数の定義、関数の呼び出し、三角関数表の表示、正方形の表示、チェッカー模様の表示 第10回：6 章 便利なツールの作成　ーツールを使った絵文字Xの表示、			

7 章 暗号 –シーザー暗号の原理 第11回:7 章 暗号 –シーザー暗号の原理 –小テスト 第12回:7 章 暗号 –文字型の配列を使った文字列の分割、配列の初期化、配列のコピー、暗号化. 第13回:7 章 暗号 –文字の値が一つずつ増えない場合の暗号化、 8 章 文字の出現回数 –テキストファイルのオープンとクローズ、ファイルからの単語の入力、文字の出現頻度 第14回:期末学力検査およびその振り返り
テキスト 『ためしながら学ぶC言語』（土肥 紳一，大山 実，紫合 治著、東京電機大学出版局）
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 小テストなど授業時の成果物30%、学力検査70%で評価します

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための の必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 広石 英記、木場 裕紀
			担当形態： クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育の目的について考え、多様な教育の理念が蓄積されてきたことを理解することができる。			
2. 近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。			
3. 教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。			
4. 近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。			
授業の概要			
本講義では、教育学の初歩的・基本的な知識を身につけ、それらを活用しながら現代の学校を取り巻く様々な課題について考えていく。「教育とは何か」「どのような教育が理想か」といった問いに、これまで多くの教育者、哲学者が挑み、答えを求めてきた。これまで唱えられてきた教育思想や、近代公教育の歴史、さらに現代の学校をめぐる教育課題など、教育に関する幅広い教養を習得するとともに、教育学でモチーフとされてきた問いに「自分だったらどのように迫るか」と主体的・探究的に考察する中で、教師として必要な実践的思考力を養っていくことを目指す。			
授業計画（1 コマ 100 分）			
第1回： オリエンテーション ー教育とは何かー			
第2回： 西洋の教育思想（1） ー近代以前の教育思想ー			
第3回： 西洋の教育思想（2） ー近代市民社会の教育思想ー			
第4回： 西洋における近代公教育の成立			
第5回： 日本における近代公教育の成立			
第6回： 新教育以後の教育思想（1） ーJ. デューイの教育思想ー			
第7回： 新教育以後の教育思想（2） ー日本での広がり と 近代批判の教育学ー			
第8回： 戦後教育改革			
第9回： 脱学校社会論			
第10回： 少子高齢化社会における家庭と子ども			
第11回： 不登校とオルタナティブ教育			
第12回： スタンダードと教育			

第13回： 近年の教育改革（1） 一学力テスト体制の拡がりー 第14回： 近年の教育改革（2） ーグローバルゼーションと教育ー 授業のまとめと質問解説
テキスト 教科書は使用しない。
参考書・参考資料等 『脱学校の社会』（イバン・イリイチ著、東京創元社） 『問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）』（勝野正章、庄井良信著、有斐閣） 『窓ぎわのトットちゃん』（黒柳徹子著、講談社青い鳥文庫） 『学校と社会』（デューイ著、岩波書店）. 『国家(上)(下)』（プラトン著、岩波書店） 『エミール（上）（中）（下）』（ルソー著、岩波書店）.
学生に対する評価 課題点（40%）と期末課題（60%）の総合評価とする。 課題点：各授業で配布されるワークシートのワークの取り組み。ワークシートには質問やコメントも記入して提出する。

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 広石 英記、今野 紀子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業は教職の意義等に関する教職課程科目であり、教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）・求められる資質と能力について理解し、将来、教職を希望する際に、自分が取り組むべき課題について見出すことが到達目標です。			
授業の概要 教職を希望する学生に、教職の意義や教師の役割・教師の職務内容や資格・採用などへの理解を深めてもらうための入門的な授業です。学校で起こる様々な問題も取り上げながら、教師の仕事や求められる教師像を考えてきます。			
授業計画（1 コマ 100 分） 第1回：ガイダンスー教職とは何か・意義と目的ー 第2回：教職という仕事と専門性 第3回：教師の養成と採用の仕組み 第4回：教師の役割と職務内容（体罰禁止と懲戒について） 第5回：教師に求められる資質と能力 第6回：教師の研修ー学び続ける教師ー 第7回：教師の服務と身分保障 第8回：教師の勤務実態ー日常生活と課題ー 第9回：チーム学校運営（学校内外の連携・分担） 第10回：学校が抱える問題と対応（1）いじめ・不登校・学級崩壊 第11回：学校が抱える問題と対応（2）教師のメンタルヘルス 第12回：社会における教師観の推移 第13回：新しい時代に求められている教師の役割と責務 第14回：進路選択に向けて一人に関わる仕事と教師ー 総括			
テキスト 特定の教科書は使用しません。（講義中にプリント教材を配付します）			
参考書・参考資料等 適宜、指示します。			
学生に対する評価 レポート（40%）プレゼンテーション（30%）グループワーク（30%）を総合的に評価します。			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための の必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 木場 裕紀
			担当形態： 単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び 学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なもの の見方によって考察することができる。 2. 学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することが できる。 3. 教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することが できる。 4. 学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することが できる。			
授業の概要			
学校は社会においてどのような機能を果たし、社会は学校に対してどのような影響 を与えているのだろうか。本講義では学校と社会との関連や教育に関する諸問題 について、質的・量的なデータを使いながら検討し、教育に関して私たちが「当 たり前」と考えていること、すなわち「教育に関する常識」を問い直していく。 講義の前半では、学校教育を支える法や制度を具体的な事例をもとに考察し、 後半では、学校を取り巻く社会の変容や学校が直面する課題について考察を行 う。これらの検討を通して、受講生の皆さんが教育社会学の基本的な知見に触 れ、データを利用しながら、様々な教育事象を批判的・客観的に捉えられるよ うになることを目指す。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：オリエンテーションー教育社会学とは何かー			
第2回：国民の教育権論争（1）ー国民の教育権と国家の教育権ー			
第3回：国民の教育権論争（2）ー教科書裁判、国民の教育権論批判ー			
第4回：55年体制下における教育行政制度			
第5回：開かれた学校づくりと地域との連携			
第6回：学校経営における参加と協働			
第7回：教育と評価ー学校評価と教員評価ー			
第8回：学歴社会とメリトクラシー			
第9回：教育機会の平等／不平等			
第10回：社会階層と学力格差			
第11回：子どもの貧困と学力			
第12回：生徒の逸脱と荒れ			
第13回：海外の教育事情（アメリカ）			
第14回：学校安全と危機管理			
授業のまとめと質問解説			
テキスト			
教科書は使用しない。			
参考書・参考資料等			
『差異と欲望ーブルデュー「ディスタンクシオン」を読む』（石井洋二郎 著、藤原書房）			
『学校づくりと学校経営（講座現代学校教育の高度化）』（小島弘道監修、学文社）			
『「つながり格差」が学力格差を生む』（志水宏吉著、亜紀書房）			
『ハマータウンの野郎ども』（ポール・ウィリス著、ちくま学芸文庫）			
『教育委員会改革5つのポイントー「地方教育行政法」のどこが変わったのか』（村上祐介編著、学事出版）			

学生に対する評価

課題点（40%）と期末レポート(60%)の総合評価とする。

課題点：各授業で配付されるワークシートのワークの取り組み。ワークシートには質問やコメントも記入して提出する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための の必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 金築 智美、今野 紀子
			担当形態： クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目では、「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を考える指導の基礎となる考え方を理解する」ことを、全体目標とします。 具体的な達成目標は、以下の2点となります。 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解でき、それらを説明することができる。 2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解でき、それらを説明することができる。			
授業の概要			
教育心理学とは、教育過程における人間の心のはたらきを、心理学的側面から科学的に探究し、教育現場におけるさまざまな問題を理解・改善していく学問です。本講義では、教育現場で必要な「発達」「パーソナリティ」「学習」「動機付け」に関する諸理論と、主体的学習を支え、それを実現化していくために役立つ考え方や方法論を取り上げ、教育と心理の関係についての理解を深めることを主な目的とします。教育心理学を学ぶことは、人間の多面的な理解にもつながり、将来、有効な教育実践を行う上で役立つ基本知識になると考えます。			
授業計画 (1コマ100分)			
第1回： 教育における発達理解の意義（1）： 発達の概念			
第2回： 教育における発達理解の意義（2）： 発達に及ぼす内的要因と外的要因			
第3回： 人間発達の過程と理論（1）： ピアジェの認知発達理論			
第4回： 人間発達の過程と理論（2）： エリクソンの発達課題、コールバーグの道徳発達理論			
第5回： 障害のある幼児、児童及び生徒における発達及び学習の過程： 発達障害の特性と学習過程における特徴を中心に			
第6回： 学習の形態や概念に関わる理論（1）： パーソナリティの類型論と特性論			
第7回： 学習の形態や概念に関わる理論（2）： パーソナリティの測定法			
第8回： 主体的学習の基礎となる学習理論： 古典的条件づけ、オペラント条件づけ			
第9回： 主体的学習の基礎となる動機付け理論（1）： 外発的・内発的動機付け、やる気のメカニズム			
第10回： 主体的学習の基礎となる動機付け理論（2）： 原因帰属理論、統制の位置			
第11回： 主体的学習を導く学級集団と学習評価			
第12回： 幼児、児童及び生徒の心身の発達に応じた主体的学習活動を支える指導（1）： 教師の役割			
第13回： 幼児、児童及び生徒の心身の発達に応じた主体的学習活動を支える指導（2）： 学校内支援と学校外支援			
第14回： 学力考查及び解説			
テキスト			
特定の教科書の指定はありません。必要に応じて資料を随時配付します。			
参考書・参考資料等			
適宜、必要と思われる書籍を紹介します。			
学生に対する評価			

評価基準は、達成目標 1 が 50%、2 が 50%とします。

評価方法は、授業時に行う小レポート（40%）、学力考査（60%）として、総合的に評価します。

授業名 特別支援教育	教員の免許状取得のための の必修科目	単位数: 1 単位	担当教員名: 小林 玄、今野 紀子
			担当形態: クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項 等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 本科目では、「通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるように、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する」ことを、全体目標とします。 具体的な到達目標は、以下の3点となります。 (1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解でき、それらを説明することができる。 (2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解でき、それらを説明することができる。 (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解でき、それらを説明することができる。			
授業の概要 特別な配慮に基づいた教育と支援を、障害のある子どもに対しても、障害のない子どもたちと同様に、通常学級の中でできるだけ行っていく考え方が普及しつつあります。このような教育システムを、インクルーシブ教育といいます。インクルーシブ教育の実践は、たとえ障害を持っていたとしても、それを一つの個性として自然に受け容れ、障害の有無に関わらず、互いに認め合う機会を子どもたちに与えることになります。このようなインクルーシブ教育を推進していく上で、教師自身が特別支援教育の必要性や実践について学んでおく必要があるといえます。本科目では、特別支援教育のシステムやそれを必要とする子どもたちの特徴や支援計画及び支援方法について理解し、それらを実践する力を養うことを目的とした講義を実施します。			
授業計画（1コマ100分） 第1回 特別支援教育の制度と仕組み:インクルーシブ教育システムを中心に特別支援教育の制度と仕組みについて解説します。 第2回 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒にみられる障害のタイプと特徴:発達、心理特性、学習過程の視点から特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒にみられる			

第3回 第4回 第5回 第6回 第7回	障害のタイプと特徴について解説します。 さまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習場面と生活場面における困難への理解を深め、効果的な支援のあり方について考えます。 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援体制の構築:特別支援コーディネータ、関係機関、家庭との連携作りについて解説します。 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援体制の具体的方策(1):教育課程における「通級による指導」と「自立活動」の特徴について解説します。 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援体制の具体的方策(2):特別支援教育の視点に立った個別の指導計画及び教育支援計画作りについて学びます。 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒における学習・生活上の困難の理解と個別及び組織的対応方法の把握について考えます。
テキスト	特定の教科書は使用しません。 (WebClass(学内向け LMS)等を用いた教材、配布資料の共有を行います。)
参考書・参考資料等	中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説 総則編(平成 29 年 3 月告示、文部科学省) 高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説 総則編(平成 30 年 3 月告示、文部科学省) 生徒指導提要(文部科学省) 「シリーズやさしく学ぶ教育課程 特別支援教育」(是永かな子・尾高進編、紀伊國屋書店) その他、必要と思われる書籍を適宜紹介します。
学生に対する評価	評価基準:到達目標(1)が 40%、(2)が 40%、(3)が 20%とします。 評価方法:授業への取り組み(50%)、レポート(50%)として、総合的に評価します。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 広石 英記 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1．教育課程の意義及び編成の方法を理解する 2．学習指導要領を理解する 3．様々な学力観と評価方法を理解する 4．多様なカリキュラムデザインと教育方法を理解する			
授業の概要 教師の最も大切な仕事は、「分る・身になる・おもしろい授業」を生徒と共に創っていくことである。この授業実践力を高めるためには、教育課程編成の原理を理解し、授業に関わる学習指導計画の基本を習得する必要がある。 また「総合的な学習の時間」が導入されるなかで、教育現場では教師一人ひとりにカリキュラムのデザイン力が求められる時代になっている。この授業では、カリキュラムの概念とその基本的知識を学ぶとともに、教育課程の目標、実施、及び評価などの具体的方法を学習する。 さらに、最近の教育方法、教育評価法を中心に教授-学習の相互作用に注目した授業設計と教授方略を学ぶとともに、具体的な学習指導案作成や模擬授業の実践を通して授業の構想力の習得をも目指す。			
授業計画（1 コマ 100 分） 第1回：ガイダンス（授業方針の説明、班別活動の集団作り） 第2回：教育課程の意義（教育課程編成の原理、カリキュラムとは何か、学習指導要領） 第3回：教育分野の意味（教科、特別活動、道徳、総合学習、部活動を含む） 第4回：教育課程の編成原理（学問性中心、学習者中心カリキュラム・PBLなど） 第5回：習得型カリキュラム（教科教育、単元学習、客観主義の学習観、私的な学び） 第6回：探求型カリキュラム（協同学習、体験学習、構成主義の学習観、公共的学び） 第7回：教えと学びの形（1）（一斉教授、参加協働型学習、問題解決学習、仮説実験授業） 第8回：教えと学びの形（2）（総合学習、環境教育、グローバル教育、生活型カリキュラム） 第9回：教育課程編成で活かす教育手法（学習集団編成、板書・発問・ゆさぶり・個別支援） 第10回：教育課程編成で活かす教育メディアの活用（eラーニング、CAI） 第11回：カリキュラム・マネジメント（意義、カリキュラム評価） 第12回：学力と評価（到達度評価、ポートフォリオ評価、ルーブリックの必要性） 第13回：授業実習（教材研究による学習指導案の作成、模擬授業の実践と相互検討） 第14回：学力考査 講評			

テキスト
教育方法論（広石英記編著、一芸社） 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示、文部科学省）
参考書・参考資料等
中学校学習指導要領解説（平成 29 年 7 月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説（平成 30 年 7 月告示、文部科学省）
学生に対する評価
授業貢献度および課題レポート（40%）、学習指導案および模擬授業（30%）、学力考査（30%）を総合して評価。

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 広石 英記 担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 1．総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方（主に以下の項目について）を理解した上で、説明できる。 ○総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。 ○学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。 2．総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方（主に以下の項目について）を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けた上で、指導計画を作成できる。 ○各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。 ○主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。 3．総合的な学習の時間の指導と評価の考え方（主に以下の項目について）実践上の留意点を理解した上で、評価規準（ルーブルック）を作成できる。 ○探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 ○総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。			
授業の概要 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。			
授業計画（1 コマ 100 分）			

第1回： ○総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。 新しい時代に必要な資質・能力（能力観の転換）とその育成のために必要な学習観の転換（PBL や社会構成主義）の理解 第2回： ○学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。 学校教育目標を、具体的な資質・能力（コンピテンシーベース）に還元し、学習の達成目標を構成する 第3回： ○各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。 各教科の年間指導計画、学校行事、総合的な学習の時間をカリキュラム・マネジメント観点から構想する 第4回： ○主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。 年間指導計画と連動した、単元指導計画を作成する 第5回： ○探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 具体的な探究過程の構想（調査研究、インタビュー、アンケートなどの実施方法と分析手法）を行う 第6回： ○総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。 学習到達目標を具体化した評価規準（ルーブリック）を作成した上で、多角的に検討しモデレーションを行う 第7回： ○総合的な学習の時間の単元指導計画、ルーブリックを作成した上で、プレゼンテーションを行い、相互評価により学びを振り返る。 各自が作成した年間指導計画及びルーブリックを発表するとともに相互評価を実施して、より洗練されたものに練り上げる	
テキスト 『学びを創る・学びを支えるー新しい教育の理論と方法ー』（広石英記編著、一芸社）	
参考書・参考資料等 授業中に資料を配付する 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）	
学生に対する評価 授業時に作成する総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の、単元指導計画および評価基準のルーブリックなどの提出物など 60%、授業時の小レポートやグループワークでの積極的な貢献度 40%	

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得の ための必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 広石 英記、福田 八重
			担当形態： クラス分け・単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 1. 学習指導要領に基づき、特別活動の目標・編成・意義を理解し、説明できること。 2. 小中高等学校での実際の取り組みと学習指導要領との関連が理解し、説明できること。 3. 小中高等学校での実際の取り組みと子どもの発達・成長との関連が理解し、説明できること。 このことを通じて、特別指導に関する実践的指導力を獲得する。 これら目標の達成に向けて、特別活動を「各教科をのぞく全ての自主活動」として捉え、授業参加者で議論を重ねながら、子ども支援と参加のための特別活動のあり方を追究する。			
授業の概要 特別活動の編成と意義及び、指導の方法を理解し、子ども支援と参加のための特別活動のあり方を学修し、実践的指導力の基礎を養う。			
授業計画（1コマ100分） 第1回： ガイダンス 授業の目標・進め方、参考文献等の説明を行う。 第2回： 特別活動をどうとらえるか （特別活動の基本的な理解） 第3回： 特別活動をどうとらえるか （学習指導要領に基づき、特別活動の目的を理解する） 第4回： 自主活動における取り組みと 地域とつながる特別活動（中学校）（高等学校） 第5回： 学級・学校づくりと特別活動（中学校）（高等学校） 第6回： 行事における指導・生徒会活動の指導（中学校）（高等学校） 第7回： 現代的な課題（いじめ・少年事件・学級崩壊など）と特別活動（中学校）（高等学校）			
テキスト 教科書は特に指定しない。授業時に、授業テーマに合わせた資料を配布。			
参考書・参考資料等 参考資料： 中学校学習指導要領解説（平成 29 年 7 月、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 30 年 7 月、文部科学省） 参考書： 『こころの叫びが届く?つくりませんか、こんな学びと学校』 （小川嘉憲、福田敦志、松山裕、船越勝著、全生研近畿地区全国委員連絡会編、クリエイツかもがわ） 『子どもとつくる対話の教育』（鈴木和夫著、山吹書店） 『中学生が笑った日々』（角岡正卿著、高文研）			
学生に対する評価 成績評価方法 受講姿勢（議論や活動への主体的参加）（30％）、授業時間内の課題提出（30％）、レポート提出（40％）等を総合して評価する。			

授業科目名： 教育の方法と技術(情報通信技術の活用含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 黒沢 学 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育方法の基礎的な理論，特にこれからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成し学習を評価するための考え方とそれらの実践について理解すること			
2. 免許取得科目で授業を構成する基礎的な要件を理解した上で学習指導理論を踏まえた学習指導案にまとめ，話法板書などの基礎技術を伴って適切な教育方法で授業が運営できるような教育技術を身につけること			
3. 情報通信技術の活用の意義と理論を理解するとともに，情報通信技術を効果的に活用した学習指導・校務推進の在り方を理解した上でそれらを効果的に用いて個別最適な学び・協働的な学びや主体的で対話的な学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解すること			
4. 生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)の育成のための基礎的な指導法を身につけること			
授業の概要			
教育方法はなぜ重要なのかを学ぶ。また学習指導案とは何か，それをどのように作成するかを学び，実際に作成しては模擬授業を行い，それについて討論することを繰り返す。また，情報通信機器の活用の意義を理解した上でそれを自ら用いて学習指導や校務推進の練習をして，それを効果的に用いるための技術，生徒が情報活用能力(情報モラルを含む。)を身につけるための指導法を学ぶ。それらを通して，教育実習に行くに当たって必要な教育の方法についての知識と教育技術を身につける。			
授業計画（1 コマ 100 分）			
第 1 回：出発点を確認し，個別最適な学びと協働的な学び，主体的で対話的な深い学びなどのこれからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の基礎的理論を知り，またその実践を理解するとともに，それらにおける情報通信機器活用の意義と在り方について知る			
第 2 回：生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解した上で学習指導案とは何かを学び，その作成法や教育評価の基礎的な考え方とその重要性を知るとともに，学習履歴などの教育データを指導や学習評価に活用することやその際に教育情報セキュリティが重要であることを知る			
第 3 回：学級・生徒・教員・教室・教材などの授業を構成する基礎的な要件を理解し，また基礎的な教育方法の理論を踏まえた上で目標・内容・教材・教具・授業展開・学習形態・評価基準などの視点を含めた学習指導案を作成するとともに，統合型校務支援システ			

- ムを実際に経験し、その使い方、特に校務推進を効果的に行う方法について知る
- 第4回：作成した指導案に基づき模擬授業と討論を行うことで話法・板書など授業を行う上での基礎的技術を磨くとともに、個別最適な学びと協働的な学び、主体的で対話的な深い学びの実現に必要なものについて知る
- 第5回：学級・生徒・教員・教室・教材などの授業を構成する基礎的な要件を踏まえた上で、前回は振り返り主体的で対話的な深い学びを実現する授業とはどのような授業かを分析し学習指導案の作成能力を高めるとともに、その授業を遠隔・オンライン教育で行うように検討することを通して遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解する
- 第6回：オンライン用に修正した指導案に基づき模擬授業と討論を行い話法などの基礎的な技術と学習指導案の作成能力をさらに高めるとともに、生徒に情報通信機器の基本的な操作を身につけさせるための指導法を学ぶ
- 第7回：前回は振り返りよい発問・指示、適切な板書について、また、各教科、道徳、総合的な学習に時間において横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む。)について討論し、その内容を理解するとともに基礎的な技術と指導案作成能力を高める
- 第8回：これまでの学びを全て反映させた模擬授業を行い、教育方法の基礎的理論と実践への理解を深め、学習指導案の作成能力・授業の基礎的な技術をさらに高める
- 第9回：総合的な模擬授業と授業に関する討論(1)(新学力観と確かな学力を保证する授業、およびそれに関する情報通信技術の活用法の授業を通して、教育方法の基礎的理論と実践やこれからの社会を担う子供たちに求められる能力を育成するための教育方法の在り方を理解する.)
- 第10回：総合的な模擬授業と授業に関する討論(2)(地域と連携し地域に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント、それを支えるチーム学校、およびそれに関する情報通信技術の活用法やICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携、学校におけるICT環境の整備の在り方についての授業を通して、教育方法の基礎的理論と実践やこれからの社会を担う子供たちに求められる能力を育成するための教育方法の在り方を理解する.)
- 第11回：総合的な模擬授業と授業に関する討論(3)(個々の生徒の能力を伸ばす子どもの理解に即した授業、個別最適な学びの中でも特に特別の支援を必要とする生徒に対する指導法とそれに対する情報通信技術の活用と意義の授業を通して、教育方法の基礎的理論と実践やこれからの社会を担う子供たちに求められる能力を育成するための教育方法の在り方を理解)
- 第12回：総合的な模擬授業と授業に関する討論(4)(新たな情報機器及び教材の活用法、育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例(デジタル教材の育成・利用を含む。)を理解した上でのその基本的指導法、情報活用能力(情報モラルを含む。)についての指導事例を通しての基礎的な指導法に関する授業を通して、教育方法の基礎的理論と実践やこれからの社会を担う子供たちに求められる能力を育成するための教育方法の在り方を理解)
- 第13回：学習評価の意義とその方法、および統合型校務支援システムを効果的な活用した評価や校務の推進を学ぶことを通して、学習評価の基礎的な考え方を理解する。

第14回：教育実習生の授業を分析し，学級・生徒・教員・教室・教材などの授業を構成する基礎的な要件を理解し，また，情報通信技術を活用する学習指導や校務推進について振り返りつつこれまで学んだことを全てまとめ，今後学ぶべきことを整理する

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説（平成29年7月、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説（平成30年7月、文部科学省）

教育方法学（佐藤学著、岩波書店）

学生に対する評価

授業貢献度（模擬授業を含む）60%，最終レポート40%

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 今野 紀子
			担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業のテーマは、生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法の理解です。生徒指導では「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けること」を、進路指導では「進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けること」を全体の目標とします。授業の到達目標は以下の6点です。			
1. 生徒指導の意義や原理を理解し、それらを説明できること。			
2. すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、それらを説明できること。			
3. 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解し、それらを説明できること。			
4. 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、それらを説明できること。			
5. 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、それらを説明できること。			
6. 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解し、それらを説明できること。			
授業の概要			
生徒指導とは、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動です。また、進路指導は、児童生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動です。授業では、生徒指導の意義や原理、進路指導・キャリア教育の意義及び理論を学びます。その上で児童生徒全体への生徒指導の方法や、特別の課題を抱える個々の児童生徒への生徒指導の方法や連携、ガイダンスとしての進路指導、カウンセリングとしての進路指導についてアクティブラーニング等を通して考えていきます。本授業は生徒指導・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を理解することを目的とした講義を実施します。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回： ガイダンスー生徒指導・進路指導の意義と目的ー： 「生徒・進路指導論」の意義と目的、授業の流れ、評価方法、注意すべき事柄などについて説明を行う。			
第2回： 生徒指導の理論（1）学校教育現場の抱える問題（体罰問題を含む）と法令： 生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことである。生徒指導に求められるもの、学校現場の抱える問題について考える。			
第3回： 生徒指導の理論（2）不登校の現状と対応 生徒指導は、教育課程における特定の教科等だけで行われるものではなく、教育課程のすべての領域において機能することが求められている。不登校の現状と対			

	応について、生徒指導の立場からグループディスカッションを交えながら考えていく。
第4回：	生徒指導の理論（3）いじめの現状と対応 いじめの現状と対応について、生徒指導の立場からグループディスカッションを交えながら考えていく。
第5回：	生徒指導の理論（4）暴力行為・非行の現状と対応： 暴力行為・非行の現状と対応について、生徒指導の立場からグループディスカッションを交えながら考えていく。
第6回：	生徒指導の方法（1）生徒の心を支えるアプローチ（部活動の意義・指導を含む）： 生徒の心を支えるアプローチとはどのようなものなのだろうか。教科指導、HR、部活動指導など、生徒指導の効果的な方法について考える。
第7回：	生徒指導の方法（2）学校内外の連携： 生徒の心を支えるアプローチは、学校内だけでなく、家庭や地域との連携が欠かせない。効果的な学校内外の連携とはどのようなものなのか考える。
第8回：	生徒指導の方法（3）今日的な生徒指導の課題（インターネット等）： インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方とはどのようなものなのか考える。
第9回：	進路指導の理論（1）進路指導・キャリア教育の原理： 学校教育制度の中には、職業観の育成・職業指導が明確に位置付けられている。進路指導では、職業指導的側面と進路指導的側面から生徒支援を考えていく必要がある。進路指導の理論として、キャリア教育のあり方について考える。
第10回：	進路指導の理論（2）勤労観・職業観の育成： 学校教育は職業生活への準備段階として、きわめて重要な意味を持っており、この時期の進路指導の意義は大きい。職業観は歴史的な社会環境に左右されるものであるが、勤労観・職業観の変遷とその育成について考える。
第11回：	進路指導の理論（3）家庭や関係機関との連携： 進路指導・キャリア教育には組織的指導体制及び家庭や関係機関との連携が欠かせない。効果的な家庭や関係機関との連携の在り方について考える。
第12回：	進路指導の方法（1）ガイダンスとしての指導： 職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解することは重要である。進路指導の方法として、主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点について考える。
第13回：	進路指導の方法（2）カウンセリングとしての指導： 生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方とその在り方を理解することは大切である。生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義やポートフォリオの活用等、キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法について考える。
第14回：	総括 求められる生徒指導・今日的な進路指導の課題： 生徒の自己実現のために、どのような生徒指導・進路指導が求められているのだろうか。また、自分らしい生き方とはどのようなものだろうか。各自の学びの成果や達成度に関する振り返りをもとに、今後の課題を含めてレポートとしてまとめる。
テキスト 特定の教科書は使用しません。 (Web システム等を用いた教材、配付資料の共有を行います。)	
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 7 月、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示、文部科学省）	

高等学校学習指導要領解説 総則編（平成 30 年 7 月、文部科学省） 生徒指導提要（文部科学省、教育図書 2011 年）
学生に対する評価 評価基準：達成目標（1）が 20%、（2）が 20%、（3）が 10%、（4）が 20%、（5）が 20%、 （6）が 10% 評価方法：授業中の課題（70%）、プレゼンテーション（20%）、期末時レポート（10%）を 総合的に評価します。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 金築 智美、今野 紀子
			担当形態： クラス分け・単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマは、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法の理解です。「幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身に付けることができる」ことを全体目標とします。具体的な到達目標は以下になっています。			
1. 学校における教育相談の意義と理論を理解し、それらを説明できること。			
2. 教育相談を進める際に必要な基礎知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を理解し、それらを説明できること。			
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、それらを説明できること。			
授業の概要			
教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。本科目は、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身につけることを目的とした講義です。教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや支援体制づくり、連携について、アクティブラーニング等を通して考えていきます。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回： ガイダンスー教育相談の意義と目的ー：「教育相談」の意義と目的、授業の流れ、評価方法、注意すべき事柄などについて説明を行う。			
第2回： 教育相談の意義と理論（1）教育相談の今日的課題：いじめ・不登校など、生徒の問題行動が増加している。教師はこれら問題行動への効果的な対応が求められるが、どのようにしたらよいのだろうか。各自の中学・高校時代を振り返りながら、学校現場の抱える問題と望ましい対応について考える。			
第3回： 教育相談の意義と理論（2）教育相談の理論：教育相談における主な理論や教育相談を進める際に必要な基礎的な知識を学ぶ。			
第4回： 教育相談の方法（1）教育相談場面の実際（視聴覚教材を通して）：来談者中心法のカウンセリングに基づき、様々な場面での教育相談ケースを学ぶ。			
第5回： 教育相談の方法（2）カウンセリングマインド：教育相談における姿勢や態度をカウンセリングマインドという。カウンセリングマインドの基本は、相手との信頼関係づくりである。生徒や教員同士、保護者や地域の人々に対して、お互いが信頼しあえる、よい人間関係を結ぶにはどのようにしたらよいかを考える。			
第6回： 教育相談の方法（3）教育相談の基本姿勢・技法：教育相談は一方的な視点ではなく、様々な視点から物事をみることが必要である。また、柔軟な考え方も欠かせない。その上で、相手を共感しながら理解し、受容することの重要性を学ぶ。			
第7回： 教育相談の方法（4）コミュニケーション（多様なシグナルへの気づき）：ことばによるバーバルコミュニケーションだけでなく、ノンバーバルコミュニケーションの大切さについて実習を通して考える。			

第 8 回：	教育相談の展開 (1) 学内外の連携・コンセンサス：お互いを尊重し合い、納得できる話し合いとはどのようなものか。コンセンサス実習を通して、効果的な意見のすりあわせについて考える。
第 9 回：	教育相談の展開 (2) 不適応事例の教育相談：不適応問題を抱えた生徒の事例について、どのように対応したらよいのかをグループディスカッションを通して考える。
第 10 回：	教育相談の展開 (3) 問題行動事例の教育相談 (いじめへの対処を含む)：問題を抱えた生徒の事例について、どのように対応したらよいのかをグループディスカッションを通して考える。
第 11 回：	教育相談の実際 (1) 傾聴のためのロールプレイと解説：相手の話に耳を傾けてじっくり聴く、自分の話を聴いてもらえるロールプレイを通して、傾聴の意義を体感する。
第 12 回：	教育相談の実際 (2) 受容のためのロールプレイと解説：相談する役、相談される役のロールプレイを通して、無条件の肯定的尊重、受容の意義を体感する。
第 13 回：	教育相談の実際 (3) 教育相談ロールプレイと解説：相談を受ける教師役、相談する生徒役のロールプレイを通して、生徒との望ましい向き合い方について考える。
第 14 回：	総括－教員に求められる教育相談の在り方－：今まで学んだことをもとに、相談を受ける教師役、相談する生徒役のロールプレイを通し、求められる教育相談の在り方について考える。 教育相談において、教師に求められる姿勢とは何かを考え、レポートとしてまとめる。
テキスト 特定の教科書は使用しません。 (Web システム等を用いた教材、配付資料の共有を行います。)	
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 総則編 (平成 29 年 7 月、文部科学省) 高等学校学習指導要領 (平成 30 年 3 月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 総則編 (平成 30 年 7 月、文部科学省) 生徒指導提要 (文部科学省、教育図書 2011 年)	
学生に対する評価 評価基準：達成目標 (1) が 40%、(2) が 30%、(3) が 30% 評価方法：授業中の課題 (70%)、レポート (30%) を総合的に評価します。	

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名：広石 英記、黒沢 学、 今野 紀子、金築 智美、木場 裕紀	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	○
受講者数 1クラスの規模を20人とする。（実際の授業の際は、1クラス20人から更にグループ化して行う）					
教員の連携・協力体制 教職担当教員を中心に、現職教員や教科担当教員と連携し、演習を行う。					
授業のテーマ及び到達目標 教職課程での学習の総括として、履修カルテによる学びの振り返りをもとに、教師として求められる使命感や責任感の自覚、社会性や対人能力のスキルアップ、生徒理解や学級経営力の育成、教科指導能力など、教員として必要な知識技能を身につける。					
授業の概要 全ての演習において「教育現場の実践的課題」を取り上げて、質疑応答、事例研究、ロールプレイング、ディスカッションなど多彩な演習活動を通して、教師として必要な要件の自覚を深めるとともに、教育活動の実践力の習得を目指す。					
授業計画（1コマ90分） 第1回： イントロダクション 学習の振り返り（個人履修カルテの確認）と本科目の意義について（講義） 第2回： 教職の使命と責任、教員の役割、職務内容の理解 （現職学校長・現職教員による講義と質疑応答） 第3回： 教職のやりがい、教職への情熱、教職の実際、各種教育問題の理解 （近隣学校でのフィールドワークと現職教員による指導） 第4回： 学校で求められる対人関係能力（社会人としてのマナー、同僚性）について （グループ討議） 第5回： 学校で求められる対人関係能力（学校現場での各種対人場面（生徒）の役割演技） 第6回： 学校で求められる対人関係能力（保護者への説明責任遂行の実際と役割演技） 第7回： 学級経営での臨床場面における生徒理解について （ロールプレイング、グループ討議） 第8回： 生徒の学力差に応じた授業運営・学級経営について（事例研究とディスカッション） 第9回： 学校および教職の多角的理解 （近隣学校でのフィールドワーク、学習支援と部活指導の実際） 第10回： 学校の情報システムの実際とその管理、ICTの活用 （学校の情報システムを運営する上での理念やAUPの説明） 第11回： 担当教員による学習指導案の作成指導					

(研究授業の反省を踏まえた学習指導案の作成) 第12回：担当教員による教科指導力の育成（ICT活用含む）（模擬授業とグループ討議） 第13回：‘学習理由’の探究 (教科ごとに「何故勉強するのか」への回答を討議によって探究) 第14回：まとめ（教師に求められる資質能力、学び続ける覚悟と社会的使命の自覚） 第15回：資質能力の確認（教場試験と履修カルテによる補完学習：個別指導）
テキスト 各教員が指示する
参考書・参考資料等 教育実習日誌 教育実習時に各学校から頂いた資料など
学生に対する評価 担当教員毎に5分割にクラス分けして演習を実施し、各演習での学力考査(40%)、レポート(30%)、ディスカッション(30%)などを評価する。 担当者が各演習のテーマに関する知識・技能および実践力を評価するとともに、最終的には、担当教員の合議によって総合的に評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。